

やまびこ

第107号

平成25年 9月



公益財団法人 **八正会**

巻頭言

「ピンチはチャンス」

理事長 玉井義郎

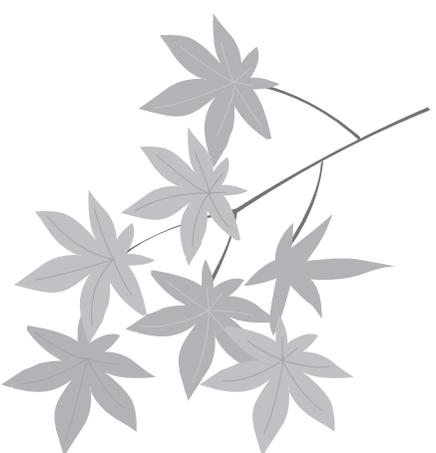
人生にはいろいろなことが起こります。

しかし、それをチャンスにするか、マイナスにするかは考え次第です。人間感じることは選択出来ないが、思うことは選択出来ます。

ピンチを否定思考で受けとめるか、肯定思考でチャンス！と自分に言いかけせるかで、その後の人生が大きく変わります。

たとえば上司から「○○君、新しいこの業務を責任を持ってほしいのだが…」と依頼された場合「ハイ、喜んで！」と快く引き受ける人と、やれない理由を探して断る人とは、すべての面で大きな差が出来ます。私たちは、何事も自信をもって実行するのではなく、自分の未熟さを我慢してするのは、問題は自信ではなく「やる気」です。

孫子の兵法は「ピンチとチャンスは同じ姿をしている。同じ状況でも凡将が見ればピンチであり、名将が見ればチャンスである」と言っています。



目次

巻頭言……理事長 玉井義郎 1
山田方谷に学ぶ……理事 南智 2
社会人基礎力……岡征二郎 7
ボランティアスクール……岡浩明 8
源氏物語の自己流読み方……評議員 船越直美 10
部活について……高校一年 宇野美咲 11
高校生活……松村優 12
今年の夏の挑戦……水川碧 13
一人反省会……河本柚月 14
高校に入って……吉川智也 15
バスケット部です……黒住美恵子 16
家族とつながり……佐伯拓馬 17
高校に入学して……高橋聖 17
私と習字……濱田恵理香 18
高校生になって……酒井彩夏 19
日本一の高みへ……藤原淳平 19
高校生になって……合田紗也 20
夏期研修会に向けて……榑原大毅 21
高校生になって……蘆原薫 22
忙しい日々、だけど……岩田真央 23
高校最初の夏休み……安井佑果 24
高校でのこと……三宅晟 24
コミュニケーションとは……小林桂子 25
山陽女子の日めくり……影山姫花 26
近況報告……久富聖也 27
本について……萩原萌 28
チャラ男？……笠笑太 29

青春……日名絵里 30
イグノーベル賞を通じて……小野遥 31
修学旅行で感じた岡山の素晴らしさ……小野史 32
人生に対して……難波千里 33
LesMiserablesを見て……小西茜 34
「夢をかなえる」を読んで……清水晃希 34
高二の夏休み……片山遥 34
京都遠征と合宿……小野龍司 35
けーぼっぷ♡……木田杏奈 36
「アサイー」について……井上法子 36
将来の展望……増田真帆 37
出会い……吉川江美 38
三年間貫徹した部活……山本成 39
八正会……中村樹里 40
変化……藤原亮輔 41
夏……斎藤莉華子 42
周りの人の支えがあつてこそ……宮田吉朗 43
節目を迎えて……後藤真依 44
我思う、ゆえに徹夜した……石井宏佳 45
一日の早さのおそろしさ……安井彩果 46
乗り越えた先……佐伯映美 47
「ワンピース」の言葉……橋野弘道 48
最初の一步……影山俊介 49
近況報告……岡本拓人 49
猛暑に思うこと……藤堂政行 50
夏期研修会日程表…… 52
夏期研修会日記…… 53
夏期研修会感想文…… 55
編集後記…… 92

山田方谷に学ぶ

理事 南 智

いま、NHKの大河ドラマに「山田方谷」をと、全国一〇〇万人署名運動が展開されている。

山田方谷（一八〇五〜一八七七）は、幕末から明治初期にかけての政治家・財政家・教育者であり、また優れた漢詩人であった。幕末期に十両（約六〇〇億円）の借財を抱えていた備中松山藩（現高梁市や倉敷市玉島等を藩領としていた）を、わずか七年の財政改革で立て直した。藩主板倉勝静が江戸幕府の首席老中となると江戸に行き、勝静の政治顧問役として天下に名を馳せ、「大政奉還」の上奏文も方谷が原文を書いたと言われている。

明治維新に際しては備中松山城を無血開城し、領民の安全を守った。版籍奉還後は専ら教育に心血を注ぎ、方谷の開いた長瀬塾、小阪部塾には全国から学徒が集まり、門下生は千人を超えたといわれる。

八正会の夏期研修でみなさん熟知の閑谷学校は、一八七三（明治六）年に六十九歳の方谷を招いて再興された。その際、次の漢詩を詠んでいる。

将遊閑谷。賦此。
孤杖欲窮閑谷源
豈唯愛静避世喧
湖西遺教蕃山学
石室蔵書尚或存
（閑谷の地に遊ぼうとして、賦した詩。
杖をひいて閑谷の地を訪い、この地に遺っている学問の伝統を窮めようと思う。これは閑静を愛し、世俗の煩わしさを避けるためではない。閑谷校の石室には琵琶湖の西岸に道を説いた中江藤樹先生とその弟子である熊沢蕃山の学問を伝える著述が大切に保存されているにちがいない。）

山田方谷は、備中松山藩領阿賀郡西方村（現高梁市中井町西方）に生まれ、五歳で新見藩儒丸川松陰に学び、非常に優れた才能を持っていたので神童と呼ばれていた。九歳のとき、松陰を訪ねてきた客に、「学問をして何をするのか」と聞かれ、「治国平天下」と答えてその客を驚かせたといわれている。二十一歳のとき学問の力を認められて松山藩に登用されるが、勉学の意欲さらに強く、前後三回京都の寺島白鹿に学んでいる。二十五歳で早くも藩校有終館会頭（教頭）に抜擢された。三十歳の時には江戸に遊学して佐藤一斎に学び、佐久間象山や塩谷石陰らの学友と互い

に学問に精進している。一八三六年帰国し、有終館学頭（校長）に任命された。また、家塾牛麓舎をおこし、子弟の教育にあたった。

一八四九年、板倉勝静が藩主になると、方谷は財政改革をはじめ、節約、産業の奨励、紙幣刷新等知行合一の精神で藩政改革にあたる。藩政改革の成功を背景に勝静は寺社奉行になり、さらに江戸幕府最後の首席老中となる。方谷はその政治顧問として幕政の諮問にあずかり、知恵の限りをつくして勝静を助けたのである。

方谷は一介の農民から身を起こして首席老中の顧問にまでなり、また、教育に偉大な足跡を残した。備中聖人と称された方谷の著書は、『山田方谷全集』に収められている。

県立高梁高校の校長室には、方谷揮毫の「任重道遠」の扁額がある。明治時代から校長室に掲示されてきたもので、私もこの扁額を仰ぎつつ三年間執務していた。「任重道遠」は簡明であるが豊かな、汲めども尽きない内容のある言葉である。これは論語の次の一章からとったものとされている。

曾子曰、「士不_レ可_三以不_三弘毅_一。任重而道遠。仁以為_二己任_一。不_二亦重_一乎。死而後已。不_二亦遠_一乎。」

（曾子言う、「士たる者は広い包容力と強い意志を持たなくてはならぬ。なんとかなればその任務は重く、そ

厚生労働省が提起した第三の能力としての社会人基礎力とはどのようなものだろうか。少しばかり、その入り口を覗いてみましょう。

概要

二〇〇五年から二〇〇六年にかけて経済産業省の経済産業政策局人材制作室が有識者対象に「経済産業省の社会人基礎力に関する研究会」が開催された。読み書きを含む基礎学力と、職業知識や資格などの専門知識は仕事をする上で大変重要な能力として理解されている。又、一個の人間として社会に出て活動するからには、「人間性、基本的な生活習慣」（思いやり、公共心、倫理観、基本的なマナー、身の回りのことを自分でしっかりとやる力等）をきちんと身につけていることがあらゆる活動を支える基盤となることは間違いないと考えられる。こうした他の能力と重なり合う部分もあるが、相互に作用し合いながら、職場や地域社会で活躍する上で必要になる第三の能力として社会人基礎力が定義された。

背景

一九九〇年代ころから二〇〇〇年代にかけて、IT化の進展など、産業構造の転換によって終身雇用制度の崩壊や非正規雇用の増大など、日本の雇用環境は大きく変化し、それまでOJTなど企業内の研修に多くを負っていた人材

の人生行路ははるかに遠いからである。その任ずるところは、最高至上の徳たる仁道の体得とその実践である。何と実に重いことではないか。しかも、その重任は死ぬまで続く。何とまことに遠いことではないか。」

山田方谷は確固たる夢を持ち、夢は叶うと信じ人生を全うした。

（元ノートルダム清心女子大学教授）

社会人基礎力

理事 岡 征二郎

グローバル化が問われだしてかなりの時間が経過した。私たちの周囲には好むと好まざるに関わらず、常に多くの情報が届けられている。ITを始めとして世界のニュースが一瞬にして手にとるように入ってくる。私たちはこれらの情報を十分に消化することなく日々を過ごしている。このように変化の速い時代に生きる一人の人間としてどのような能力を身に着ければいいのであろうか？学校で学ぶ基礎学力や、専門知識は仕事をする上で大切なものであるが、

養成システムは大きな変化を迫られるようになった。企業はいわゆる即戦力の採用を求める傾向が強まっている。

その一方で、少子化を背景とした高学歴化によって、専修学校や職業高等学校など専門教育課程において職業教育を受けようとする学生は年々減少しており、学校教育を通じてキャリア教育も再編を迫られている。地域社会の衰退も小さくなっており（このことは地域の教育力の低下を示している）、家庭や学校が職業教育においてどのような役割を果たすことが出来るかが改めて問われている。

社会人基礎力の内容

経済産業省は社会人基礎力を、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な能力」と定義している。この社会人基礎力は三つの能力から構成されている。

前に踏み出す力（アクション）
一歩前に踏み出して失敗しても粘り強く取り組む力

考え抜く力（シンキング）
疑問を持ち、考え抜く力

チームで働く力（チームワーク）
多様な人とともに、目標に向けて協力する力

これらの能力はさらに細かく分類され十二の能力要素に分けられている。この能力要素とはどのようなものなのかを具体的にみてみましょう。

社会人基礎力の十二の能力要素

(1) 前に踏み出す力 一歩前に踏み出して失敗しても粘り強く取り組む力

実社会の仕事において、答えは一つに決まっておらず試行錯誤しながら、失敗を恐れず、自ら一歩前に踏み出す行動が求められる。失敗しても、他者と協力しながら粘り強く取り組むことが求められる。

① 主体性 物事に進んで取り組む力

(例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。

② 働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力

(例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。

③ 実行力 目的を設定し確実に行動する力

(例) 言われたことをやるだけでなく、自ら目標を設定し、失敗を恐れず、行動に移し、粘り強く取り組む。

(2) 考え抜く力 疑問を持ち考え抜く力

物事を改善していくためには、常に問題意識を持ち

課題を発見することがとめられる。その上で、その課題を解決するための方法やプロセスについて十分に納得いくまで考え抜くことが必要である。

④ 課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力

(例) 目的に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。

⑤ 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

(例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明らかにし「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。

⑥ 創造力 新しい価値を生み出す力

(例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。

(3) チームで働く力 (チームワーク)

職場や地域社会等では、仕事の専門家や細分化が進んでおり、個人として又組織としての付加価値を作り出すためには、多様な人との協力がとめられる。

⑦ 発信力 自分の意見を分かりやすく伝える力

(例) 自分の意見を分かりやすく整理したうえで、相手に理解してもらおうように的確に伝える。

⑧ 傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力

(例) 相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど、相手の意見を引き出す。

⑨ 柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力

(例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する力。

⑩ 状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

(例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。

⑪ 規律性 社会のルールや人との約束を守る力

(例) 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。

⑫ ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力

(例) ストレスを感じることがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。

これらの社会人基礎力が現在の社会でどのように求められているかは、各企業が求める社会人基礎力を見れば理解できる。

企業の求める社会人基礎力

課題を発見することがとめられる。その上で、その課題を解決するための方法やプロセスについて十分に納得いくまで考え抜くことが必要である。

④ 課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力

(例) 目的に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。

⑤ 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

(例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明らかにし「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。

⑥ 創造力 新しい価値を生み出す力

(例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。

(3) チームで働く力 (チームワーク)

職場や地域社会等では、仕事の専門家や細分化が進んでおり、個人として又組織としての付加価値を作り出すためには、多様な人との協力がとめられる。

⑦ 発信力 自分の意見を分かりやすく伝える力

(例) 自分の意見を分かりやすく整理したうえで、相手に理解してもらおうように的確に伝える。

平成十八年二月に経済産業省が企業に対して実施した

「社会人基礎力に関する緊急調査」の結果をまとめて四月に公表した。この調査結果を紹介しながら、各企業が求める人材像を明らかにしたい。

① 社会人基礎力の重要性について

約93・4%の企業(東証一部上場企業と中堅・中小企業の合計したもの)が、新卒社員の採用プロセスや入社後の人材育成において「社会人基礎力」を重視している。

② 「求める人材像」の提示

東証一部上場企業においては、71・2%の企業が独自の言葉を用いて若者に対して「求める人材像」を表現しているのに対し、中堅・中小企業では30・9%にとどまる。

③ 「求める人材像」と社会人基礎力との関係

(三つの能力)

企業の「求める人材像」においては、東証一部上場企業では「前に踏み出す力」を、中堅・中小企業においては「チームで働く力」を重視する企業が多く見られる。

④ 若者の能力の「強み(自信のあるもの)」と「弱み(自信のないもの)」(三つの能力)

若者は、「チームで働く力」には自信がある(と

56・6%が回答)が、「前に踏み出す力」には自信がない(と51・3%が回答)と感じており、大企業が求める人材像との間でギャップがみられる。(このデータは「みんなの就職株式会社」提供による)

⑤「求める人材像」と社会人基礎力との関係
(十二の能力要素)

企業が求める人材像について、企業規模にかかわらず「主体性」(84・3%)、「実行力」(79・5%)、「創造力」(67・6%)が高い割合で求められている。

大企業では、「働きかけ力」、「課題発見力」、「発信力」、「柔軟性」がより高く求められる傾向がみられる。

⑥若手社員に不足が見られる能力と社会人基礎力との関係
企業規模にかかわらず、「主体性」や「課題発見力」が指摘されている。

また、大企業では「働きかけ力」、「ストレスコントロール力」において不足が見られる一方、中堅・中小企業では「実行力」、「計画力」、「柔軟性」において不足が指摘されている。

⑦業種別「求める人材像」と社会人基礎力との関係

ここでは各企業が求める人材像のうち最も高いものを示す。

運輸・通信業……「前に踏み出す力」、「チームで働

く力」

要素別…「計画力」、「柔軟性」

卸売り・小売業…「チームで働く力」

要素別…「働きかけ力」、「規律性」、

「ストレスコントロール力」

金融・保険業……「考え抜く力」、「チームで働く力」

要素別…「課題発見力」、「規律性」、

「ストレスコントロール力」

建設業……「チームで働く力」

要素別…「計画力」

サービス業……「前に踏み出す力」

要素別…「創造力」、「傾聴力」、「ス

トレスコントロール力」

製造業……「考え抜く力」が顕著に高い

要素別…「主体性」、「創造力」

このように見てくると、企業により求める能力や人物像に違いがあることがわかる。内向き志向が強いといわれる日本の若い人が自ら希望する職業につくためにも、その職業が求める能力を身に着けることが求められるのではないだろうか。

この稿は平成二十五年玉野市社会教育委員会の研修会で使用したものの一部である。

参考資料

「社会人基礎力に関する緊急調査」

(経済産業省) 平成十八年四月

フリー百科事典「ウィキペディア」

その他インターネットの「社会人基礎力」

(元旭川荘療育センター児童院顧問)

ボランティアスクール

理事 岡田 浩明

今年の夏は酷暑と大雨に見舞われましたが、八正会奨学生の皆さんは、部活動や補習、そして閑谷学校での研修と、充実した生活を送られた事と思います。

私が勤務する旭川荘厚生専門学院は、この夏も、高校生の皆さんに、将来に役立つボランティアの基礎的な知識を学び、施設での体験をしていただくため、ボランティアスクールを開催しました。

二十九年前から、県教育委員会や山陽新聞などの後援を得て毎年開いてきましたが、今年も大勢の高校生が参加し

てくれました。

参加のきっかけは、友人に勧められて、ホームページを見て、保護者に勧められて、進学説明会で知って、ポスターを見てといういろいろで、動機も、ボランティアをやりたいから、医療福祉の現場を知りたい、多くの体験を積み将来は国際社会で活躍したいからと様々でした。

参加者は、ボランティアの基礎知識や旭川荘の施設について学んだあと、初めて会った人たちと仲間作りをし、三(四人のグループで、旭川敬老園(高齢者施設)、旭川療育園(肢体不自由施設)など四施設に分かれ訪問しましたが、本学院の教員に加え、学院生のサポートもあり、緊張感を持ちながらも、和やかに高齢者や障がいのある方との交流を行うことができました。

体験発表を終え、修了証を受け取る高校生の顔つきは、最初のぎこちない態度から、笑顔とともに、何か大きなことをやり遂げた満足感が伺われました。また、感想文にも、障がいを持つ子どもとコミュニケーションが取れた事、車椅子を押させていただいたお年寄りから、素晴らしい絵や書を見せていただき感激した事などが綴られ、良い体験をし、多くのものを持ち帰ってくれたものと、うれしく思っただ次第です。

私の高校入学は、昭和三十六年で今から約五十年以上

前でした。倉吉の高校でしたが、「おもしろいことがある、夏に三徳山の宿坊で合宿がある」と誘われ、入ったのがJRC（青少年赤十字）です。合宿では基礎的な知識や救急法などの研修を受け、先輩方と夜を徹して語り合い、国宝の投入堂にも登りました。JRCの活動では養護施設の訪問もしましたが、その施設から同じ高校に進学して頑張っている人の事も知り、自分の恵まれた境遇を改めて知ったという経験もしました。

興味本位で入ったJRCですが、今でも多くの事が思い出されます。その後の私の高校生活は、山歩きに目が向き、高校二年生の夏には二泊三日のキャンプを三回行い、「教員は良いぞ、休みもあり山にも行ける」との先生の勧めで教職への道を選ぶ事になりました。今は遠き、懐かしき思い出です。

暑い夏に流した汗は、秋の豊かな稔りとなって帰ってきます。夏の経験や体験は、その後の人生に大きな影響をあたえることは確かです。これからも積極的に物事に取り組み、充実した高校生活を過ごされることを祈念しております。

（旭川荘厚生専門学院 学院長）

源氏物語の自己流読み方

評議員 船越直美

退職後の勤務先だった玉野市生涯学習センターが開催する定期講座に「源氏物語」を読んで行くものがある。月一回の講座なので、全五十四帖を読み終えるのに五・六年はかかる。その講座への参加は無理だが、講師の先生が他地域で開いている講座の講座生と一緒に貸切バス・日帰りで行く「源氏物語の旅」なら都合がつくので参加させてもらった。毎年、源氏物語ゆかりの地をいろいろ訪ねる旅で、今年は比叡山を訪れた。

広い延暦寺は東塔エリア、西塔エリア、横川エリアに分かれている。

理系の私は全くの知識もなく、東塔エリアの文殊堂を見学した時の資料に、「昔、文殊楼に目無し鬼がいた」とあり、講師の先生が示してくれたその文献を調べてみると、源氏物語「手習」の巻に出てくるらしく、比叡山横川に住む僧都が、旅の帰路中の母の危篤の知らせに下山し、その母を一時休ませるために借りた家が長いこと無人で荒れ果

てていたため様子を見に行くと、その家の裏で怪しげに白く広がる物怪を発見する。この物怪に弟子たちが大騒ぎし、怖がって恐れながら近寄る場面があり、この時、「昔、文殊楼にいた目無し鬼ではないか？」と恐れたというだけの話である。別にその物体が鬼であったわけでもなく、ではないかと怖がっただけである。しかし、ここからが源氏物語の面白さを知ることになる。実はこの物怪は、その頃山荘で入水したと大騒ぎになっていた浮舟というひととき美しい女性であった。もちろん薫（光源氏の子）の愛人である。どうしてこんな所に？上流から流されて来たのか？それははっきりしない。何故入水したのか？より、危篤だった母と、今にも死にそうな沈黙を続ける女の二人の命の行方は？が気になって読み進むと、結果的には共に命を取り留める。過去に娘をなくしている危篤だった母は、この美女を娘と思って連れて帰ることにし、二人とも少しずつ元

気を取り戻すが、自殺をはかった浮舟の心は閉ざされたまま。誰にも会わぬよう隠れて隠してひっそりと暮らし（垣間見た中将に言い寄られたりするが拒否し続ける。）、横川の僧都に無理矢理頼んで出家する。

やがて、薫に生きていることを知られることになり（この知られるいきさつもきちんと書かれていて推理小説のようにすっきり付合する）、浮舟の具父弟に会いに行かせる

が拒否される。それで薫は男に囲われているのではないかと誤解する。…こんなにも悩む浮舟にとって、また作者にとって、男に対する絶望…で、長い長い物語は終わる。なんと中途半端な余韻を残した終わり方に、誰もがこの続きが気になり、多くの人によって色んな続きが想像されては書かれたとか。

早くも終わりに行ってしまったが、遡って、やっと浮舟は何故入水したのか？へうつる。薫と恋愛関係にあった浮舟だが、ある夜、薫の声を装った匂宮が訪れ、薫だと思つて応じたが、偽りだったことを知り（明かりをつけないうにと言われ、騙された形になった）羞恥心から泣く。しかし次第に匂宮を薫より勝った美貌の持ち主と思うようになる。薫と匂宮の板挟み…なるほどこれが原因か…そして普通とは異なる読み方をしていく自分に気づく。つまり、旅で訪れた場所に関する一文から、その前を読んだり、後を読んだりするという普通あまりしない読み方だ。自分ではこんな読み方も「有り」だと思っている。高校生の時、こんな読み方でもしていたら、もっと源氏物語、しいては古文がもっと身近で興味のあるものになっていただろうに…と悔やまれる。

源氏物語はフィクションであるが故に登場人物が極端に

美化されたり、逆に醜さが誇張されたりする。例えば源氏親子は何をしても良い男、転んでも良い男として描かれ、女たちもそれぞれに例えようのない美しさをもって登場する。逆に六条御息所のように嫉妬から生霊となって恋敵に取り憑き、呪い殺すという凄さ。彼女に二人も呪い殺されている。

ある面、人物は美化されながら、現代にも通用するドロドロとした人間関係が描かれ、それが一つの魅力にもなっている。筋書きも変化に富み、韓国ドラマさながらで、(源氏の方が手本のはずだが)、はまってしまった韓流ファンのように続きが気になり、早く知りたい気持ちになった。

そしてフィクションでありながら、登場人物の墓や位碑が存在するという信じられないことがありうる、それが源氏物語のすごさでもある。旅の一回目、須磨・明石の旅では、地藏院へ明石の入道の位碑があるという寺に、その位碑を見に行つたし、二回目、平安京の旅では、夕顔の墓を訪れた。三回目の今回は横川の僧都のモデルだと言われている恵心僧都の墓を訪れたのである。

当時、貴族の間で大流行し、続きの巻が早くでないかと、

弓道部の仲間とは男女共にすぐ仲良くなれて休憩時間に皆で話すのを楽しみに筋トレを頑張りました。

しばらくは筋トレばかりの毎日でしたが、そのうち弓道の型の練習をさせてもらえるようになりました。初めのうちは自転車荷ヒモを使って練習をしていましたが、少ししてからはゴム弓という専用の道具で練習をしました。筋肉がない私は他の人のようになかなか上手く引けませんでした。皆が矢を射っているときに私はまだ弓も触らせてもらえませんでした。でも毎日こつこつ練習したかいはあり、そのうち皆と同じように矢を射たせてもらえるようになりました。初めて矢を射ったときは、的ではなく巻き藁という藁の塊に射ちました。放つ瞬間はすごい緊張したけど、ちゃんと刺さって凄く嬉しかったです。練習はきつかったけど頑張って練習してきて良かったと思えました。これからは先輩みたいに的に向かって矢をばしばし当てられるようになりたいです。

首を長くして待っていたファンが多くいたと言うのも頷ける。今で言う、ベストセラー連続小説であったことは間違いない。

(元玉野市立山田小学校校長)

部活について

玉島高校一年 宇野美咲

私は玉島高校に入学して、弓道部に入部しました。私は運動が大の苦手です。だから書道部や茶道部とか、体力が無くてもできる部活がいいな、と何となく思っていました。でも明日いよいよ入部届けを出すというとき、ちょっと気が変わって弓道部と書いて出しました。やっぱり運動部のほうがカッコいいし、弓道ならそんなに運動できなくてもできるだろう、と軽く考えていました。

しかし部活一日目で早速、そんな軽率な考えで入ったことを後悔しました。二時間の間、筋トレ三昧だったからです。腕立て伏せ一回するのもままならないのにぶっつけで百回ほどしました。あの頃は本当に辛かったです。でも

高校生活

芳泉高校一年 松村 優

芳泉高校に入学してからあつという間に四ヶ月が経ちました。中学の時とは比べものにならないくらい忙しいです。が密度の濃い毎日です。

私はバスケットに入部しました。が、練習についていける自信が全くありませんでした。そのうえ人見知りの性格まで邪魔していました。でもすぐに不安は拭われました。一年生十二人、二年生の先輩方三人、三年生の先輩方九人、みんなあなたたかい人ばかりでこのメンバーとなら頑張れると思ったからです。三年生の先輩方は引退してしまいましたが、たくさんのお話を教えていただきました。私は先輩の人柄が好きだし尊敬しています。先輩は引退試合の前だと、いうのに練習中、どうしていいのかわからなくておどおどしていた私に分かるまで丁寧に教えてくださいました。プレーしている時には直したほうが良い所は指摘してくださいました。こういう事が本当の「思いやり」であり「仲間を思う気持ち」なんだと痛感しました。そしてあの引退試合は決して忘れません。県で三本の指に入るぐらいの強い

チームとあたり惜しくも負けてしまいました。途中の時点では逆転していたり、スリーポイントシュートのブザービートが決まったりと、とにかくカッコよかったです。今は新チームになり、この間初めてユニホームをもらいました。私はミスを引きずってしまっただけでプレーが悪くなったりコンディションが下がってしまったことがあります。それはバスケットに関してだけではありません。またバスケットを理由に勉強をおろそかにしたくないのですが、課題をギリギリこなしているだけで予習・復習まで手が回っていないのが現状です。自分のこれからの課題が見つかったので立ち向かっていきます。

最後に、高校生になっていろんな人と関わる事が多くなつたと感じます。そしてなによりたくさんのお会いがありました。クラスメート、チームメート、そして八正会。この出会いを大切にしていきたいです。

今年の夏の挑戦

倉敷天城高校一年 水川 碧

私が今年の夏挑戦したのは、エミリー・ブロニテ作「嵐が丘」の読破でした。私は読書が好きで、学校の図書館にも部活がない時はほとんど行きます。以前は現代の小説やライトノベルなどよく読んでいたのですが、最近では世界の名作を読むようになっていました。外国文学は小難しいのが多そうと思っていたら、読んでみるととても興味深くおもしろくてすっかりハマってしまったのです。そして、一番最初に書いた「嵐が丘」を読んでみようと思ったのです。しかし、私は以前この作品に挑み、読破をあきらめたことがあります。だからこそ、今年こそはきつと読み終えてみせる!!という思いを強く抱き読み始めました。

この物語を読むにあたり、以前私を苦しめたのは主に二点です。一つ目は文章がとても多く長いことです。本の厚みもさることながら文字も小さいのです。二つ目は文章が少し分かりづらいこと。この二つを克服するために、「新訳」などの分かり易く読み易い本を選ぶことで読破しやすい本を見つけたのです。後はひたすら根性で読むことにしました。

ました。嵐が丘という作品は登場人物に感情移入して読み進めていくことが、難しい本だと思います。私は途中から登場人物の気持ちになって……ということをあきらめ、「エミリーはどうしてこんな話を書いたんだ!」と主に作者に問いかけるような形で読んでいき、私の夏の挑戦は終了しました(笑)。読破するという目的は達成できましたが、

作品に対してまだあまり理解できない所などが残りましたが、何年かたち、私をもっと物事を知るようになる。「嵐が丘」という作品を名作だなぁと思えるようになるのだろうか、などと今は考えています。これからも名作と呼ばれる文学作品への挑戦を続けていきたいです!

今回が初めての原稿となります。慣れないことが多いと思いますが、これからよろしくお願ひします。

一人反省会

岡山一宮高校一年 河本 柚月

ついこの間入学したと思っていたのに、いつのまにか夏休みが始まっていました。部屋のカレンダーは七月のまま

ストップ。気がついたら姉にめくられていました。私はカレンダーをめくるのが好き(!?)なので、少々悲しい思いをしました……。

それはさておき、あくせくと日々を送るうちに一年生の三分の一が終わってしまいました。特に何かをしたという記憶も残っていないので、ちょっと振り返ってみることにしました。

まず良い点、これは二つあります。

一つ目はユニークな友人たちができたことです。生徒会執行部に在籍し、初めて得た成果だと思っています。「この人たちと三年間やっていくのか……」と色々な意味で思いました。何とか頑張れそうです。

二つ目は、思ったより漢文が得意になれたことです。現文・古文はなんとかなっていましたが、漢文は嫌いでした。でも初めのテストの結果を見て「少しでも漢文の成績を上げたい!」と思い、勉強しました。すると次のテストでは、思っていたより良い点がとれて、とても嬉しかったです。

次に悪いことは二つ。

時間が守れず、人に迷惑をかけたことと、一人でしゃべりすぎだったことの二点です。どちらも自分で何とかしないと正せません。おしゃべりなのは昔からですが、実

は「しゃべりすぎだな、私。」とずっと思っていたのです。ずっと思っていたのに直せない……いやきつと、私の心が弱くて直さなかったのですね！少しずつ改善していきたいです……。

良いことと悪いことを思い出していると、なんとなく一学期の記憶も戻って来ました。日常生活の全てが良いことではないけれど、自分を見つめ、しっかり考えて、濃い内容の二学期にしたいと思います。次の一人反省会では、ぱつと二学期が思い出せるように、一日一日を大切にしていきたいです。

そういえば、二学期には入学前から憧れていた文化祭（銀杏祭。ぎんなんさいではなくて、いちようさいです。）もあります。しかも念願の生徒会Tシャツを着て参加できるのです。これはもう記憶に残ることまちがいなしです。今から、本当に今このタイミングから二学期が楽しみになっていました。

反省までで止めるはずだったのに、思わず思いの丈を叫んでしまいました。変な終わり方になってしまってますいません。乱筆乱文でしたが、読んでくださってありがとうございます。ございました。

それでは、次回の反省会でお会いしましょう。

勉強して自分が本当に入りたい大学に入れるように頑張ります。

予想していた以上に中学と違って困る事もありますが、わからない事でも自分なりに一生懸命取り組んで慣れたいです。例えば、文化祭で自分に任された委員会の仕事などでも、一人で解決しようとせず周りの友達や先輩や先生に聞いて手伝ってもらい大きな行事などを成功させていきたいです。また八正会も一つの学校だと思い、少ない行事の中で友達との絆を深め楽しんでいきたいと思っています。

バスケット部です

岡山芳泉高校一年 黒 住 美恵子

私は高校生になって、部活は入っておこうと思っただけです。中学の時はバスケット部で、あまり強いところではなかったのですが、キツイ四割、楽しい六割くらいでやっていました。

しかし芳泉高校のバスケット部は強いと聞いていたし、私が

高校に入って

倉敷古城池高校一年 吉 川 智 也

四月に入学式を終えて、今に至るまでたくさん思い出ができました。一つは、友達との関係が上手くいけるかについてとても心配でした。僕はあまり自分から話しかけないので最初は不安でした。でも同じ中学校の友達と話していく中で緊張感が少なくなっていき自分から友達に話しかけるようになり、三年間楽しく高校生活を送れそうです。二つ目は、部活動です。先輩、後輩関係に気を付けて今も頑張っています。特に三年生の先輩は最後の大会を終えて世代が変わって初めての試合の時はとても緊張しましたが、今後に向けての良い経験になりました。また八月の上旬には大阪に遠征に行き、より中学と高校の違いに気付けたと思います。この経験を活かして今後の抱負にしていき自分が目指している目標に向けて頑張ります。三つ目は勉強です。テストでも良い点が取れずいつも悩んでいます。でも提出物は確実に出しています。点が悪くても提出物は絶対に出すと高校に入学する前に決めた三年間の目標です。まだ二年あると考えるのはいいのですが、地道に

入ってもついていけなさそうだな〜と思っていたので、どの部活に入るかとても迷い、結局、入部届を出す日までにこれといった部活が定まらず、とりあえず何かと思い、クッキング部に入りました。

クッキング部は週一で部活のない日はただ勉強もせずに入らただら過ごす日々でした。

そんなが続いていたある日、自分は本当にこれでいいのかと考えると、自分がばかしく思えました。「できないじゃないじゃなくて、したいかどうかじゃないのか。」と思いました。それを考えるといてもたってもいられなくなり、バスケット部の見学にいきました。するとバスケット部の人たちはみんな優しく、先生は「私弱いんですけど……」って言ったなら「僕が強くしてやる。」と言ってくださり、もう、すぐバスケット部、いいな。と思いました。それからバスケット部の体験に行くと、体力落ちまくってた私にとってはめちゃくちゃキツかったけど、やっぱりバスケット部のみんなは優しく、キツイけど、がんばろう。と決めました。

クッキング部をやめ、バスケット一筋になった今、バスケット部はなくてはならない存在です。今はキツイ二割、楽しい八割で、部活がだるいと思ったことはまだ一度もありません。バスケット部は私の心の支えでバスケット部といっしょにいるだけで悲しい事や苦しい事も、ちっぽけに思えます。もっと強

くなるためにこれからはがんばります!!

家族とつながり

操山高校一年 佐伯 拓馬

僕はある休日に、アニメの映画を観ました。それは、「ナルト」というアニメで主人公の両親は生まれたばかりの息子を守るために犠牲となり、主人公は小さい頃から一人ぼっちで寂しい生活をしていました。その中で主人公は別の世界で死んだはずの両親と過ごし、段々、元の世界に戻るべきなのか迷います。それもそのはず、ずっと一人の主人公にとって夢のようでも家族の温もりや温かいご飯を望んでいたはずです。どんな人でも寂しい生活をした後に、そのような世界に来たとして、どのような決断をするのでしょうか。僕は半分以上の人は残ることを選ぶと思います。僕も正直言って結論は今も出ていません。常にお手伝いさんや母親が家にいた人にとって理解しづらいことだと思います。僕の母親は女手一つで僕を育ててくれてとても感謝しています。また、祖父母や母の姉も小さい頃から

高校に入学して

岡山工業高校一年 高橋 聖

私はこの春、岡山工業高校デザイン科に入学しました。岡工のデザイン科に入学することができて、本当に嬉しいです。

一学期を振り返って見ると、色々大変でした。特に専門科の課題が思った以上に多くて驚きました。入学する前からまわりの人とかから課題が多いと聞いてたけど本当に多くて、大変でした。それにまだ計画的に行うことができてなくて、いつもしめ切り前日とかに焦ってしまいます。あと初めてプレゼンテーションというのをしました。初めてのプレゼンは大失敗です。自分の伝えたいことが相手に伝わったかわからないし、緊張しすぎてあまり前を見ることできませんでした。なので二学期では自分の伝えたいことをきちんと伝えられるプレゼンができるよう努力したいです。あと、専門科の課題は夏休みもでてるけど既に計画的に行えてないので、二学期からは計画的にしめ切り前日に焦らないようにしたいです。それだけでなく、普通教科の勉強も頑張っていきたいです。一学期は色々焦ってばか

よく面倒を見てくれて、多くの食料品や便利なグッズなどを成長期の僕たちにくれます。その三人には本当に頭が上がりません。今はメールや電話をしたり、話をしたりするぐらいしか出来ませんが、将来、沖縄などのきれいな景色のある所に旅行で連れて行ってあげたいです。でも、一番は母親です。僕は操山高校の野球部に所属しています。そして、平日には朝練で毎朝五時に起き、六時に家を出ます。母はこの一時間で弁当と間食のおにぎり二個を毎日作って家を出る時刻には間に合わせてくれます。かといって夜に帰ってくるのは七時ぐらいで、その後僕たちのご飯を作ってくれます。家事も決して欠かすことなくしてくれます。こんなこと簡単に出来ません。だから、せめて毎朝「いってきます」を笑顔で母に言うようにしています。

家族もそうですが、僕の場合は八正会様に奨学金として援助を受けています。もっと知らない所で支えてくれる人もいるでしょう。世の中必ず、支え合って生活している人ばかりです。支える割合と支えられる割合は人それぞれですが、これは人間として言えるでしょう。だから、少なくとも分かる範囲内の人だけでも支え、感謝することがつながりであり、必要だと思います。

りだったので、二学期は充実した高校生活を送りたいです。

私と習字

岡山朝日高校一年 濱田 恵理香

私は習字が好きだ。いつも自由作文の時は習字について書いている。小学校、中学校と暇を見つければ習字に時間を費やしていた。しかし、高校に入学して、暇と言える時間は全くというほどなくなった。思っていた以上に高校生活は、忙しいものであった。毎日、予習復習に時間をとられ、部活もあるので土日さえ一人でゆっくりと習字を書くための時間はなくなった。それでも習字をやめようとは思わなかった。思うように時間はとれないまま一学期は終わった。そしてやってきた夏休み。あいかわらず部活で忙しく、多くの課題と向き合っている。そんな中久しぶりに一日中習字を書いた。次の日はとても疲れていたが、とても心が落ち着いた。一学期の間の習字への思いが字に表れたかのように納得のいく字が書けた。やっぱり習字を書いている時間は私にとって幸せの時間だと改めて感じた。こ

れからもずっと習字を書き続けていきたい。今はあまり時間がとれないけれど、時間の使い方もっと工夫することで習字を書く時間を確保することができると思う。今までなんとなく過ごしてきた時間を有効に活用していきたい。勉強と部活、そして自分の大好きな習字、たくさん頑張って最高の高校生活にしたい。

高校生になって

倉敷古城池高校一年 酒井彩夏

私は、高校生になって課題の多さに一番驚きました。中学校のときは比べられないぐらい多量の課題がでるからです。特に週末課題は多いので大変です。でも、私は頑張って今までの課題は全て期限までに出しています。再提出にも、一回しかなかったことがあります。夏休みの課題や、これからの課題も多いので時間がかかって、大変だと思っただけ頑張っただけで期限までに出したいです。

次に、私が高校生になって新しく始めたことについて書きたいと思います。私は部活動に初めて入りました。中学

日本一の高みへ

岡山朝日高校一年 藤原淳平

もう高校に入学し四ヶ月が経ちました。せっかく学校に慣れてきたというのに夏休みとなり、なかなか生活リズムを一定に保つのは難しいものです。

さて、なぜこんな題名になったのかというと、僕は七月の末に学校の校外学習で富士山に登ってきたからです。実際に富士山に登ったの感想ですが、とにかく疲れました。登り始める前から雨は降り始めるし、曇っていてご来光を見ることも出来なかったし、風は強かったし、高山病にかかりかけると頭が痛くなるし、トイレ一回の使用は二百円ぐらいかかるし、という感じでなかなか大変な登山でした。大変だったのは登山だけでなく、下山も大変でした。むしろ下山の方が登山の疲れが溜まったまま降りてなかなか足が疲れました。

この登山では、毎年何人か途中で脱落する人がいるのですが、今年はなんと参加した生徒全員が登頂に成功しました。本当にみんなで登頂できてよかったです。さらに、下山するときには、空も晴れていてきれいでした。

生のときは、入りたいと思う部活がなかったので、入っていませんでした。私は今、華道部に入っています。活動内容は、とてもシンプルで花を生けるだけです。一ヶ月に一回、保健室で花を生けています。部活をする回数は、運動部や他の文化部より少ないけれど先輩や同級生の友達と花を生けるのは、とても楽しいです。私は部活を始めて、よかったなと思いました。だから、私はこれからも新しいことをたくさん始めたいです。

最後に、私がこれから頑張りたいこと。それは、授業の予習・復習です。習ったことを記憶するには、最低三回は勉強しないといけない、と学校で先生が言っていました。だから私は、勉強を予習で一回、授業で一回、復習で一回の合計三回しようと思いました。でも、私はまだそれをしたことがありません。だから、これからは頑張っただけ復習ができるように努力したいです。

この登山は自分にとってとても大きな経験になり、おとなになって友達と話すときに思い出せたらなと思います。

高校生になって

岡山東商業高校一年 合田紗也

高校生になって、四ヶ月以上が経ちました。入学してからの大きな思い出を書きたいと思います。

四月は誕生日があつて、その日の夜に中学の友だちがサプライズしてくれたことがひとつめです。高校の友だちは全然知られてなくて、はあ…今年寂しい誕生日だ…と思っていたので「おめでとう!!」と言われた時、とても嬉しくて涙をこらえています。高校はみんなバラバラになったけど、今も繋がっているとと思うと、とても嬉しくなりました。忘れられません。

二つめは、高校の友だちと冗談を言い合えるようになったことです。初めは、本当に嫌だ嫌だ嫌だだっと思っていましたが何週間か経つと自然に馴染んでいって心から笑えるようになった自分がいつの間にかいました。その時、私は

「時間」って大事だなと思いました。仲良くなつていく時も、慣れていく時も、ケンカした時も、時間が解決してくれることは本当にすごいと思いました。この事に気付けたのも思い出です。

三つめは、家で一人の時お昼ご飯を食べようと思ってそうめんを茹でていたら、なんと!!そうめんを焦がしてしまいました。(衝撃)まさかそうめんを、まともに作る?ことができないとは…。少し悲しくなりましたが今度から気をつけよう、と心に決めました。

四つめは、小学校の頃仲の良かった友だちと六年ぶりに会ったとき、その友だちの喋り方が全然変わっていません。たことです。その子は私とは逆で身長が高くてモデルっぽくて話がとても面白い子です。六年間も会ってなかったから会えた時すっごく嬉しかったし、「変わらないもの」を見つけて倍、嬉しくなりました。

四ヵ月経って初めて体験することが多く、いろんな発見もありました。これからもいろんなことを発見して、体験したいです。あと、身長が伸びたらいいなと思います。

なかつたことを知れたりする機会があると思うのでいろんなことを吸収できたらいいなと思っています。

ですが僕の中の不安がもう一つあります。ある日僕の家には八正会の封筒が届きその中身に目を通していました。日程が八月十日、十一日、十二日になっていました。母と話したところ僕は初日しか参加することが出来ないことが分かりました。という事はみんなと接する時間が少なくなります。その事で少し不安がありました。しかし一日目の日程を見ると野外炊事がありレクや交歓会などがありました。みんなと交流する行事がたくさんありました。なので僕は一日目しか参加することが出来ませんがその短い時間の中でできるだけみんなと話をしたりして仲良くなつて楽しい一日にしていけたらいいなと思っています。

高校生になつて

倉敷青陵高校一年 蘆原 薫

高校生になつて、はや四ヶ月ほど経ちました。中学校のときの生活とは全く異なり、高校に入ったばかりのときは、

夏期研修会に向けて

瀬戸高校一年 檜原 大毅

僕は中学三年生の頃にこのトンボの八正会の事を案内で知りました。その案内を見てから作文があるということが分かり家ですぐに作文を書き提出したところ八正会の方々が選んで下さり八正会のメンバーの一員になることが出来ました。

その後春に第一回目の集まりがありました。そこでは八正会の先輩の方もわざわざ来て下さっていました。そんな中で一つ先輩方からの言葉でよく耳にした言葉がありました。それが夏期研修会の事でした。先輩方はみんな夏期研修会は「すごく楽しいよ」とか「ここでみんなと仲良くなれるよ」などの言葉を聞きました。僕は一回目の集まりですごく緊張していました。その事もあり同級生のみんなは知らない人ばかりで全く会話などをする事が出来ませんでした。ですが先輩のみなさんは「最初は全く誰とも話せなかつたけど、夏にある研修では周りの同級生とも話すことができて仲良くなれたよ」という話もありました。なので僕も今回の夏期研修会でいろんな人と話して自分が知ら

予習と宿題をこなすのも大変でした。しかし、予習を事前にしてから行かなければ、授業が全く分からない教科もあるので、眠けと戦いながらも頑張っています。

私が中学生から高校生になつての勉強面以外の変化した点は、眠る時間と、学校での生活です。中学生のとき、受験シーズン以外は寝たいときに寝れる、今から言うところの夢みたいな生活でした(学校から宿題を渡されても、即日友達と教え合いながら残つてやつたり、休憩時間にやれば終わるものばかりでした。)が、今は宿題が出されない教科は実技と化学と世界史くらいで、他はたくさんです。とても休憩時間内や放課後を使ってすぐ終わらせられるようなものはありません。なので、自然と寝るのが遅くなり、好きな時間に寝ることが出来る生活とはかけ離れていきました。二つめの変化した点は、学校での生活です。中学生のときは部に入らず、人付き合いも苦手な方でしたが、高校生になつて二つの部活を兼部し、中学生のときに感じる事ができなかった上下のつながりも持つようになり、横のつながりも大切ですが、上下のつながりは社会に出たときに、きっと役に立つ経験だと思っています。

これからの高校生生活は、中学生のときできていた宿題をなるべく早く終わらせることと、今できている上下のつながりを壊さずに横のつながりも大切にして、人付き合い

苦手を克服していけるようにしたいと思います。

自分が学校に行けるのは周りの方々の温かいご支援やご協力があつてこそなので、感謝の気持ち無くさずに、しっかりと胸に抱いて高校生生活一年目をスタートさせたいと思つていきます。

忙しい日々、だけど…

倉敷青陵高校一年 岩田 真央

私はこの春、無事に高校生になりました。入学した当時は、勉強のこともあまり深く考えず、無理せず余裕を持つていこう、とはりきっていました。それからはや四ヶ月。今の私は、日々部活に勉強に塾に追われ、家に居るのは朝と夜のみという生活を送っています。

今回この作文を書くにあたって、この四ヶ月間を振り返る、とてもありがたい良い機会だと思いました。そこで私は、この四ヶ月をしっかりと振り返ってみようと思います。

まずは入学してまもない頃。この頃は新しい友人ができたり、新しい制服に本当に毎日が楽しかったです。予習も

慣れなかつたけど、先生が丁寧に教えてくださり、内心、こんなペースだと大丈夫！と思う自分でした。

そして五月頃。初めての定期考査です。私はこの中間テストで、初めて屈辱を味わいました。というと、前日に切羽詰まるという事態を引き起こしてしまったのです。当然、前夜に高校のテストの内容を頭につめ込むなど、不可能でした。結果は得意科目に救われ、普通であったものの、心のどこかで危機感を感じていました。部活動の方も、今思えばいまいちでした。

六月から夏休み前にかけて。正直この二ヶ月間はつらかつたです。しかし一つ成長もありました。それは、中間テストの失敗を期末テストに生かしたことです。充実したテスト週間、それに伴い良い結果もできました。何がきっかけかというところ、日々の疲れが始め、家に帰るとぐったりして、予習がおろそかになってしまふ、という事でした。さらにだんだん増す暑さに、バテ気味でもありました。

このままではいけない、と思い始めた夏休み。今の生活は、朝部活動、午後勉強、夜塾といった、ハードスケジュールです。でも、なぜか、高校生活スタート時の、あの新鮮な楽しさよりも、今の方がもっと楽しいのです。忙しくても毎日それをこなして頑張っている自分に、少し達成感を感じているからでもあると思います。でも、このままで

高校最初の夏休み

岡山芳泉高校一年 安井 佑果

高校生になって最初の夏休みがきた。私は夏休みに入る前、頭の中で理想の夏休みを思い描いていた。勉強面では課題を早めに終わらせて一学期の復習をしっかりとする。部活動は毎日、休まずに行き一回一回の練習を本気で頑張る。そして、せっかくの夏休みだから友人と海に行ったり買い物と一緒にしたり、花火大会に行つて楽しむ。

二分の一程、終わってしまった夏休み。夏休みが始まってから今までの生活を振り返ってみると勉強面、部活面、娯楽面のどの面においてもできていないわけではないがどれも中途半端にしているなと思った。

勉強は一日中ずつと勉強する日と、一日全く勉強しない日があつて不安定だ。部活は行くのは毎日休まず行っているが、暑さのせいにしてすぐ心が弱くなつてしまつている自分がある。娯楽は最初の方はよく遊んでいたが最近外に出るのが億劫になり、家でゴロゴロすることを優先してしまつている。

今までの生活を振り返つて、「これではいけない」と私

はいけないのです。ただ与えられた課題をするのは当たり前です。そこにプラス何かをしないと、青陵高校へ来た意味はないのです。そこで私は、某塾にも追加で通い始め、苦手科目克服に一步踏み出しています。この一步をきっかけに、さらに新学期からは頑張る思いです。

振り返ってみると、内容の濃いような薄いような四ヶ月です。これを九月から、どう切り換えるかは、自分次第です。私は勉強もそうですが、部活動もとっても楽しいです。毎日忙しいけれど、幸せだと思います。しかし一つ忘れてはならないことは周囲の人からの支えです。毎日お弁当やお茶の準備、試合の必要なお金や、練習着など多くのことをしてくれている母、アドバイスをくださる学校の先生など、普段感謝をする機会がなくても、心の中では、ありがたく思うことは一番大切だと思います。私はそういう事も含め、今よりもっとすばらしい高校生活を送ろうと思いません。

は思った。

なので今、私は改善に努めている。この夏休みはどちらかという部活がメインになってくるので少しずつ空き時間を見つけてコツコツ勉強できるようにした。部活も先輩を見習い全力で取り組んでいる。遊ぶ計画を友人と最近立てた。

しかし、重要なのはこれを三年間ずっと継続しようという強い意志を持ち続けていくことだと思う。

部活動で何度も暑さや、ハードな練習に心が折れそうになった。しかし、それでも練習が終わった後の達成感がとても気持ちよく練習に耐えるという意志をもてるように最近やつとなってきた。

自分の普段の生活の中でも部活動で培った意志を存分に発揮したいと思う。

これから、勉強や部活動以外にも様々な困難なことが出てくると思うがとにかく少しずつでもいいので一歩一歩成長していきたい。

高校でのこと

玉野光南高校一年 三宅 晟

まずはじめに、初めての作文で何を書いていいかわからないので、高校に入ってから書く予定です。

僕は今までに二度転校したことがあり、その度に誰も知らない不安でしかたのない教室の空気を感ずきました。今回は入学して知っている友達もいたのですが、やはり何度体験してもあの教室の空気は慣れません。僕はかなりの人見知りなので、優しい目で見てやってください。

入学してから早々、宿泊研修というものがありました。「やる時期がちょっと早すぎないか？」と思いました。泊まる部屋には同じ中学校だった友達は一人もおらず、案の定あまり誰とも打ち解けることができませんでした。宿泊研修自体は楽しかったです。そしてこの宿泊研修からはやいこと三ヶ月あまりが経ちました。今では、自分から話しかけられなかった横や前の席の人と、他人から見ればくだらないと思われるような話をして盛り上がりつつあります。

部活動については、僕は中学校のころからやっていた陸上競技部に入ろうと決めていました。しかし、実際に陸上

部の活動を見学し、今の自分とのレベルの違いと、勉強とこのキツイ練習とを両立させることができるのかということを考えてみました。あたりまえです。体育科が九割以上を占める陸上部に、普通科でたいして強くない僕が敵うはず

もありませんでした。そうして他に入れる部活がないかさがしていると、友達がフェンシング部の見学に誘ってくるので、「見るだけなら…」と思って行ってみました。最初は「へえー…」ぐらいの気持ちでしたが、その友達が入部すると言うので、僕も入ることにしました。しかしその友達が、土壇場で「やっぱり休日欲しい。」と言って去ってしまいました。なので僕は、一人で入部することになりました。でも、意外とフェンシングは楽しく、友達もでき、体育科もないの気楽にやっています。

部活動のことについて少し長くなりましたが、これくらいにしておきます。

とにかく高校でも八正会でもうまくやっていけるか不安なところはありますが、三年の間どうぞよろしくお祈りします。

コミュニケーションとは

創志学園高校二年 小林 桂子

私はやまびこの作文でいつも何を書くか迷うのですが、結局学校のことばかり書いているような気がします。なので、今回は学校以外のことにしようと思ひ、少し悩みました。悩んだ末、この夏休みに受けた特別講義をきいて感じたことや考えたことを書くことにしました。

講義のテーマは『技術としてのコミュニケーション』でした。講師の先生が最初に言われたのは、コミュニケーションは自分にとって必要な情報を収集するための道具であるということです。それをきいてなるほどと思いました。私は人前で話すことが苦手ですが、難しく考えずどうすれば自分にとって良い方向にいくかを考えればいいのだと分かりました。

もうひとつ印象に残っている言葉があります。それは、相手は自分の鏡であるということです。例えば、兄弟に物をとってほしいと頼まれてすぐに対応できないとき、「はやくとって！」

と強い口調で言われると、つい自分もきつい言い方で返事

をしてしまっていると思います。しかし、頼む側が最初に「忙しいところ悪いんだけど…」など相手を気遣う一言を付け加えるだけでお互いが気持ちよく過ごせることができると思います。

コミュニケーションは人対人なので、もちろん上手くないかないこともあります。しかし自分が変われば相手も変わることがあると思います。

この講義で学んだことは、コミュニケーションは使うものだということが、見方が変われば考え方が変わるということです。これからは学んだことを上手に活用して、良い人間関係をつくっていかねばなりません。

最後になりましたが、毎月多額の奨学金ありがとうございます。

山陽女子の日めくり

山陽女子高校二年 影 山 姫 花

山陽女子中学、高等学校では朝のホームルームで日めくりを読むのが習慣になっている。

「日めくり」というのは一九五〇年前後に上代淑校長によって制定され、その表現を現代の生活感覚に合わせたものです。

上代淑先生は明治四十一年から昭和三十四年までの五十一年間、山陽学園の校長を務め「愛と奉仕と感謝」という山陽学園の教育理念を築き、生涯女子教育に身をささげた人です。

日めくりで私が一番好きな言葉は「あなたの最善今すぐ」です。

例えば誰かが困っているときとか、宿題が面倒だなあと思っているときとか、部活でしんどいときとかにこの言葉を出すと勇気を出して声をかけてみようとか、頑張つてやらないと思つてあきらめずにできたりする。

他にも「夜の眠りに明日こそは、朝の目覚めに今日こそは」今日こそは何かできるようにしようと思えるし、「人のために尽くすことこそ私たちの喜びである」は人に何か良いことをするとき、面倒くさいなあと思うんではなくて喜んで進んでできる人になろうと思う。

他にも「日めくり」には上代淑先生のたくさんのお言葉が書いてある。私は朝「日めくり」を読むことによつて今日も一日頑張ろうと思える。

私はこれからまだたくさん人生が残っているから嫌なこ

とも苦しいことも、やりたくないこともあると思うけどこの「日めくり」を思い出して頑張つて生きていきたいと思う。

近況報告

岡山朝日高校二年 久 富 聖 也

僕は今年の三月中旬に学校の「イギリスサイエンスカレッジ授業体験プログラム」に参加したので、近況報告として、それについて書きたいと思います。

最初に僕がこのプログラムに参加した理由から説明すると、まず僕の将来の夢が世界の人々と協力しなければならぬものであり、協力するための技術やヒントになるものを、それに参加して、得ることができると思ったためというのが主な理由です。

滞在先はロンドンとケンブリッジの両方にそれほど遠くない位置にあるウエリンガーデンシティという町で、息子が一人の家に僕はホームステイをしました。

イギリスに到着して、僕は一番最初に自分のリスニング

能力の低さを感じさせられました。日常生活の中では一度で聞きとれなくても、きき返せば、より易しく話してくれるので何とかなるのですが、学校の授業で先生が生徒全員に話していることは、その場で何度も聞き返す訳にもいかないので、周りの状況から予想したりして、終始緊張して聞いていて大変でした。僕はこの体験から英語はリスニング能力が無いと話にならないことがわかりました。

イギリス研修の中ではケンブリッジ大学のサイエンスフェスティバルで、ノーベル賞受賞者と直接話ができたり、大手製薬会社で薬の実験をしたり、いろいろ学びましたが、僕が一番学んだことは、言語という障壁の大きさと、常に臨機応変な対応ができることの大切さ（一番と言いつながら二つですが）だと思います。

イギリス研修中で「どうでもいいけど、印象に残った」ことも一応紹介しておきます。まず、信号が縦に色が並んでいたことです。次に、食事の形式のことで、朝はシリアル、昼は毎日同じサンドイッチ、夕食は主食が必ずしも存在しないような献立で、最初は驚きました。

僕はイギリスへ行ったことで、とてもたくさん夢実現のためのヒントを得ることができました。この経験を活かして将来役立つ人間になりたいと思います。

本について

就実高校二年 萩原 萌

最近よく読み返す本があります。その物語は私の心をハラハラドキドキさせ別の世界へ連れて行ってくれる異次元の切符なのです。

一冊目は、はやみねかおるさんの『都会のトム・ソーヤ』です。この本は頭はいいがちょっと抜けている創也と、頭はよくないがおばあちゃんの知恵で様々な危機から創也を助ける内人が創也のゲームクリエイターになる夢を手伝いながら問題を解決していきます。この物語で一番印象的なのは、創也の言葉です。

「教師も人間なんて言うけれどね、それでも僕は特別であつてほしいと思うんだよ。」

これは、まさに今の時代を反映しているように思います。色々な問題を起こしている教師もいますが、私の側にいる先生たちのように私たちのことを一番に考えてくれる教師へのエールのような気がします。そして、それを目指す人にもあてはまると思います。

二冊目は、あさのあつこさんの『NO・6』です。この

チャラ男？

岡山芳泉高校二年 笠 笑 太

今回、やまびこの原稿を書くにあたって一人の友人のことを紹介したいと思います。ここでは、彼の名前は「K君」としておきましょう。

K君は、僕とは中学校に入学してからの付き合いで、同じチームでサッカーをしていたりと、仲良しの一人でした。彼の中学校での生活はズバリ言って悪く、成績も良くありませんでした。そして高校受験にも失敗してしまい、某私立高校に入学しました。彼は高校生になり、時間がたくさんできる環境下にながら、バイトも定まらず、気ままに生活するような毎日でした。その中で、暇なときに、うちに顔を出すようになりました。そのうち彼は笠家の家事をするようになりました。僕はとても変な気持ちでしたが、彼の家事をしようとする態度は少しかっこいいとも思ったことがあります。

その後、さらに驚いたことに、彼は、僕の弟が通う、障害児の施設で働くと言いだしたのです。しかも「ボランティア」で。僕は最初、耳を疑いました。しかし、その事実

話はある都市に将来を約束された少年「紫苑」が犯罪者である少年「ネズミ」をかくまったことで事件にまきこまれていく話です。時が経って、青年になった紫苑は都市への忠誠を誓う時に、ただ適当に受け答えしているだけのシーンがあります。この紫苑は現代のやる気がなくただ流されている人たちにあたります。これに対してネズミが

「言葉つてのはな、あんたみたいに軽々しく使っちゃいけないんだよ。押し付けられて平気でいては、だめなんだ。」という場面が紫苑以上に過酷な場所で生きてきた「ネズミ」という彼の重みにつながっていきます。事実、今の私も何も考えず返事をし、自分の言葉に責任を感じたことはありませんでした。この言葉を見たときに自分がとても情けなく思えてきました。

このようにして、本は登場人物を通じて私の心を動かし、響かせてくれます。私はいつまでも本との出会いを楽しんでいきたいと思えます。

を知ったときには、彼はもう一日中、その仕事をこなしてきたところでした。本当に不思議に思った僕は彼に、「なんでバイトじゃなくてボランティアなの？」と聞いてみたところ、彼は、「うーん、よくわからんけど、やってみたら楽しいし、何より、ああいった場所から知ることもあるよ。」と答えられました。もう全てがアンビリバーボー。初めて彼を心から尊敬したときでした。勉強をしない、髪を染める、といった素行の悪さはあるのですが、そんなことよりも人間として大切なものを彼は持っていると思います。

このことを受けて、僕は勉強をすることは確かに大切と思いますが、K君の持っている僕を含め、多くの人に欠けているかもしれない大切な「何か」を意識して、これからの人生を歩んでいけたらな、と思います。

最近K君へのイメージは「チャラ男」から「チャラ男？」に変わりました。

青春

岡山朝日高校二年 日 名 絵里華

私はとうとう来年受験生になってしまいます。受験生になると遊べない！ということと今年の夏たくさん遊びました。その中から何個かピックアップして書きたいと思います。

まず七月のおわりに同じクラスの六人で花火をしました。ナイアガラなどの花火をなげたり、自転車に設置して発射させたりしていました。(私はしていません)普通の手持ち花火を口にくわえたりもしました。(あくまで私はしていません)とても危険でしたが、楽しかったです。

八月の頭には友達四人でユニバに行きました。整理券をもらい損ねてバイオハザードに乗れなかったこと以外に心残りはありません。四人でおそろいの服を着て、おそろいの髪型をして行きました。皆さんも是非してみてください。他には、花火大会に行ったり、河原で話したりしました。このあとの夏休みの予定では、弓道部で肝試しと花火をしたり、ライブに行ったりします。両方とも楽しみです。遊びだけでなく勉強も充実させたいです。

は少し違うけど)

これらの研究者は、ただ面白おかしいことを狙っている、というわけではありません。実験を基にした分野での受賞事由は全てきちんとした手順を踏んで発表されています。加えてなんと、『カエルと力士を浮揚させるための磁石の使用に対して(物理学賞)』受賞した人々のうちの一人は、後にノーベル物理学賞を受賞しています。

科学的な分野でいえば、ノーベル賞受賞もイグノーベル賞受賞も、研究者たちの好奇心が振り切れた結果であり、受賞理由となる研究の発端は実は大差がないのかも、と思います。私は文系に進んだので、こういう研究をすることはおそらくないでしょうが、こういう子どもっぽい好奇心はずっと持てるようにしていきたいと思いました。

修学旅行で感じた岡山の素晴らしさ

岡山芳泉高校二年 小 野 雅 史

六月末、岡山芳泉高校の二年生は関東・富士関東・北海道の三つのコースに分かれて修学旅行に行ってきました。

イグノーベル賞を通じて

岡山城東高校二年 小 林 遥

突然ですが、『イグノーベル賞』というものを聞いたことがあるでしょうか。ノーベル賞とは全く異なり、『人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究』に対して与えられる賞です。賞金はなく、授賞式への旅費や滞在費は自己負担。

具体的な受賞理由を抜き出してみると、『イヌに寄生するノミは、ネコに寄生するノミより高く飛ぶことを発見した(生物学賞)』、『報告書についての報告書についての報告書についての報告書の準備を奨励する報告書についての報告書』、『ピカソとモネの絵画を見分けられるようにハトを訓練し、成功したことに対して(心理学賞)』、『ロンドンのタクシー運転手の脳は、他の一般市民と比べて海馬の後部が高度に発達していることの証拠を提示したことに対して(医学賞)』など、どれも一見首をひねりたくなるようなことに対して、真剣に研究に取り組んでいる人が世界にはたくさんいる、ということに気づかされます。(文学賞

僕は関東コースを選び、主に東京の各観光地を三泊四日で周りました。僕は東京に来たのはほとんど初めてで、フジテレビ、上野動物園、ディズニースー、浅草など多くの有名な場所を訪れることができ、本当に充実した研修内容だったのですが、正直言うと、東京は住みやすい場所ではないと感じました。人の多さはさることながら、電車や地下鉄の乗り換えには本当に苦労して何度も迷子になりました。そして最終日、岡山行の新幹線の車内では多少の寂しさはあったものの、ホームシックからか、早く岡山に帰りたいという気持ちの方が勝っていたのかもしれない。話は変わりますが、最近、部活動や行事などで岡山県内のあらゆる高校に行くようになりました。勿論、学校によって雰囲気は異なりますが、どの高校も周囲に自然の緑があるということに気付きました。周りに豊かな自然があり、落ち着いた環境で勉強や部活動に取り組めるのも岡山県の魅力だと思っています。

半年ほど前、テレビで「岡山県は第二の首都」というような内容の番組を見ました。流石に「第二の首都」というのは言い過ぎだと思ったのですが、自然災害の影響を今まほとんど受けていない岡山県に多くの企業が注目しているということは妙に納得できました。

僕の志望校は県外にあるので、将来のことを考えると、

この岡山県を離れてしまうかもしれません。しかし、ここに書いたような岡山県の素晴らしさを忘れず、故郷に誇りをもって日々の生活を送りたいです。

人生に対して

岡山城東高校二年 難波 千里

『誰かが死ぬということ。完全に死ぬということ。』

巨大な力が、彼女をもぎ取るように奪い、世界との繋がりを遮断した。僕らが共有していた時間や空間や感情は、そこからぶつりと消滅した。不可逆で絶望的な断絶。あらゆる事象のなかで、唯一、死だけが完全に起こった。

愛や生は完全だろうか？信仰や意志や感情は完全だろうか？月や太陽や空気は完全だろうか？

僕は気付く。時間。不完全に満ちた世界で、死と似た完全性をもって時間だけが流れる。』

これは私が読んだ、ある本の一節です。この本は、理不尽な病の死、今ある日常的な生活、人の命、そして大切な人の死について深く考えさせてくれた本です。おそらく誰

日を幸せに大切に生きたいです。

Les Misérables を見て

倉敷天城高校二年 小西 茜

私が本当に最近したことはDVDでレミゼラブルという映画を見たことだ。友達が「うちも一回見たけど、すごい泣ける!!」と言っていたのでその友達と一緒に見た。

この映画のあらすじは『貧しさからパンを盗み十九年も投獄された男ジャンバルジャンは仮釈放されるが、老司教の銀食器を盗んでしまう。しかし司教の「それを使ってやり直せ。」という慈悲に触れ改心する…』というような感じだ。このような内容の物語を聞いたことがある人もいると思う。私も見るうちに気付いたのだが、「ジャンバルジャン物語」という本を読んで聞いたことがある話だった。しかし知っている内容にも関わらず、誰もが三度泣きすぎる」という予告の通り泣いてしまった。私はまず一回目は娘のために身を売り亡くなる母のシーンだ。二回目は片想いの彼を救うため政府軍の銃を受けた革命軍の女性が亡く

にでも大切な人、大切なものがあると思います。家族、友達、恋人、ペット、宝物など。

私は今まで大切な人を身近に失った悲しみを経験したことがありませんでした。大切な人を失うということさえ、考えたことはありませんでした。いつも近くにいる当たり前の存在で、いなくなる事なんて考えもしなかったのです。しかし、この本を読んで変わりました。

この世には必ず生があり、死がある。また喜びがあり、悲しみがある。そんな世の中に生かされた私たちは、その中で自分なりの幸せを大切な人と一緒に見つけていかなければならない。

また、大切な人ができると楽しいことも二倍になるように思えます。しかし同時に大切な人を失う怖さも二倍になるように思えます。

すごく悲しいお話に思えるかもしれませんが、人間にはタイムリミットがあるから、残された時間を優雅に、一生懸命に、幸せに生きようと思います。

だから、私はこの本に出会って、私の人生、残された人生を幸せに、大切に生きたいと思いました。まだ私は十七才で、残された人生は長いと思われる人もいらっしやるかもしれませんが。しかし、人生は何が起こるかだれにも分かりません。いつ何が起きても後悔をしないように、毎日毎

なるシーン。そして三回目は主人公ジャンバルジャンが娘が見守る中、天国へと上がるラストシーンだ。

人を愛するということ、本当の人間らしい心とは何かを深く考えさせられるシーンだ。この時代でジャンバルジャンのような考えで生きていくのは困難なはずだ。周りの時代に流されずに身近な人を愛することの大切さを私はこの映画を見て感じた。

そして私がこの映画を気に入った理由の一つはこの映画がミュージカルなことだ。物語や普通の映画より登場人物の内面や場面の状況を分かりやすく読み取れ、まるで自分もその時代を生きているように感じられ、臨場感があった。このようにこの映画は深く考えさせられるしついつい入り込んでしまう。ラストシーンは絶対泣けると断言できる!!!

ぜひぜひ見てみてください。

「夢をかなえる」を読んで

倉敷工業高校二年 清水 晃 希

この本は日本人なら誰もが知っている澤穂希さんが夢をかなえるために必要なこと大切なことを書いている本です。澤さんは、女子サッカー選手で、アジア人史上初の「FIFA最優秀選手賞」を受賞した言わずと知れた名プレイヤーです。サッカー選手としての澤選手はテレビで見ることができませんが、この本を読むことで一人の人間としての澤さんを知ることができます。僕は今、大きな夢というものはありませんが小さな目標があります。この本では思いを実現させるための六十四のアプローチが書いてありますが、全てが自分のためになるとは思いませんでした。僕の小さな目標を達成するために必要なことだけをこれからの人生の参考にしていこうと思いました。今回この本を読んで、にかく努力しようと思えました。結局はあきらめないこと、やめないことが夢をかなえるための第一歩だとあらためて感じました。この本を読めば、自分を見つめ直すこともできるのです。ぜひみなさんにも読んでほしいです。

回戦負け。絶対に負けると分かっていたても、やはり負けてしまうのはとても悔しかったです。「次は勝つ！」この気持ちを持ち日々の練習により一生懸命励みたいと思います。相変わらず高一のときと同じような夏休みを送っていますが今年は少し違います。高二ということもあって、愛媛大学へオープンキャンパスへ行きました。直接大学を見られるだけあって、大学の雰囲気を感じることができたので良かったです。

今年の夏休みは、より多くの経験をしました。この経験を活かして今後の学校生活や行動に役立てたいです。(まだ夏休みは終わっていませんが笑)

京都遠征と合宿

岡山工業高校二年 小野 龍 司

僕は今年も夏の研修に参加することができませんでした。今年は部活動の合宿と重なってしまって、毎年楽しいときいているので、参加できなくてとても残念でした。

でも、この合宿と京都遠征は、岡工バスケット部では毎年あ

高二的の夏休み

倉敷古城池高校二年 片山 遥

お久しぶりです。やまびこを書くのは、今回で三回目(？)になると思います。一回目、二回目と好きなように自由に書いてしまったのですが、第三回目の今日はゆるく近況報告というものをさせていただきます。

高校生になり二回目の夏休み！やったーと言いたいところですが、七月中は補習、そして八月後半も補習のため、お盆休みを含め約二週間の夏休み…。そして、今はその真っ只中におります。もちろん課題という名の悪魔にも追われております。

実質はほとんどない夏休み。さらに私の場合部活動をしているので、時間の作り方がとても重要になってきます。私としては部活動の話をちよこつとしたいと思うので、話を戻させていただきます。

私はバドミントン部に所属しているのですが、高二になり先輩と呼ばれる立場になり、少し照れるような、嬉しいような。まあこの話は置いときましょう。先日、大会がありました。ダブルス、シングル共に強い学校とあたって一

つて、これがあることで一段とチームとしても個人としても成長することができると思っています。

まず先にある京都遠征では、毎年いろいろな県から強いチームが集まって、大会が行われます。予選では、京都の菟道高校、三重の津田学園、滋賀の八幡工業と試合をしました。予選は二勝一分で、得失点差で一位リーグに進むことができました。一位リーグでは、準決勝で京都の福知山成美高校としました。去年もこのチームには勝てなかったのですが、勝ちたかったけど、二十五点差で負けてしまいました。三位決定戦では、今年のインターハイでもベスト8に入っている大阪の大阪学院としました。とても接戦になったけど、一点差で勝つことができ、三位になることができました。

合宿では、倉敷工業と水島工業とずっと練習試合でした。三日間ずっとはとてもきつかったけど、どちらにも一度も負けることなく合宿を終えることができました。これで残りの夏休みをもっと頑張っていきたいです。それに、来年の夏の研修には絶対に参加したいと思います。

最近のことを書くかと思ったんですけど、とくに書くことがなかったなので、今回は私が好きなKPOPについて書きます！笑

まず、KPOPはダンスがうますぎる！可愛い！カッコイイ！あとは努力がハンパないと思います。ダンス・歌の練習はもちろんのこと、あとは外国に進出しているの、その国の言語を覚えたり、しゃべれるくらい勉強したり！本当にすごいと思います。私も韓国語を勉強して書いたり話したりできるようにになりたいです。

最近友達が韓国ホームステイに行っていて、帰ってきてその時の話を聞いて、絶対私も韓国旅行にいつか行ってやる！って思いました。(笑) 食べものはおいしいし、売っているものは安いし、街はKPOPづくしだし！韓国嫌いな人もたくさんいると思うけど、少しずつでもいい所を見つけて少しでも好きになってほしいです。あと、国同士でも仲が悪いので戦争をしないくらいの仲にはなっほしいです。

ずくもなく飲みやすいそうです。美容好きの母にはうってつけの宣伝文句でしたが、とりあえず、調べてみることにしました。

今回は私が調べた奇跡のフルーツ「アサイー」について紹介させていただきます。含まれる栄養分はごぼうの六倍の食物繊維、牛乳の二・二倍のカルシウム、ブルーノの十倍の鉄分、バナナの二・八倍のカリウム、プロッコリーの十倍のマグネシウムなどありました。これらの栄養源によって、肌のツヤやハリがアップする、活性酸素抑制により老化防止、視力向上、眼精疲労を回復させる、冷え症改善、高血圧改善、貧血回復など様々な効果が期待できるそうです。ブラジルなどで自生し、加工され、日本に輸入されています。

普段、食事にあまり感心がなく、出されたものを食べるだけの私でしたが、毎日、三食自分が口にするものについても、意識してみるのも、面白いかなと思います。

あと半年で受験生なのでKPOPにつかるのは息抜き程度にして勉強を頑張っ行って行きたいです。

「アサイー」について

倉敷古城池高校二年 井上 法子

何について書くか悩んでいたところ、大学生の姉が最近某ファミレスでアルバイトを始めました。何かとマイペースな姉ですが、働き振りを見に行こうと、本人には内緒で、家族で食事に行くことになりました。姉はびっくりした様子でしたが、意外とてきぱきと働いており、家とは違う姉を知りました。お冷やを運んできた姉は、「私も食べたいのに」と笑顔で妹に話していました。母は少し安心したようでした。

腹ペコな私たちは、メニューを開いたところ、聞いたことのない、アサイーという果実が紹介されていました。美容に効果があるということで、母がアサイージュースとアサイースムージーを早速オーダーしていました。見た目は、チョコレートの様な色で、味は甘くもなく、かといってま

将来の展望

岡山城東高校三年 増田 真帆

今、高校三年生の夏を過ごしていますが、時間は当然流れていくので、十九歳、二十歳とどんどん年をとっていきます。全て思い描いたとおりにはなかなかありませんが、将来こうでありたいと強く思うことで、少しずつ近づいていくと思います。もちろん努力も必要ですが、未来の自分の姿を考えてみることはとても簡単で、楽しいことです。

私は今から必死に勉強に励み、そして第一志望の大学に合格します。そしてそこで、四年間しっかり知識を積み、私の夢である看護師になります。大学四年の間で、私はうらじやの連に所属し、踊り子にとって最大の祭りである桃太郎まつりに出ます。たくさんの人と出会い、素敵なキャンパスライフを送っていることでしょう。

今書いたことが、私が一番望む未来です。

しかしこれらのことを達成するためには、今以上にもっと勉強をして、特に数学と英語を伸ばさなければなりません。まずは次の模試から徐々に点を伸ばし、その次は前の模試よりもっと点を伸ばして、センターでベストを尽くせ

るようにしたいです。

勉強はわかれば楽しいけど、そういう時ばかりでなく、わからないところは投げ出したくなります。でも、思い描く未来の自分に一歩でも近づくんだけ、と自分に喝を入れてがんばりたいです。

どうしても挫けそうになった時は、顧問の先生が言ってくれた言葉をいつも思い出します。

これから目標を掲げ、達成するために努力を積むだろう。そのとき、「どういう状況で、問題点は何で、どういうときに頑張らないといけないかということ自分を自分で考えて動く」という経験をしている三年生は強い。

自信を持って、受験にも闘いを挑め!!

顧問の先生は、いつも私たちのことを考えてくださり、的確な指示をしてくださいます。この言葉も、私たちの学校生活や、部活の様子を見て言ってくださいました。私はマネージャーを通して経験し、学んだことを受験勉強に活かし、またその先の目標である看護師になったときも活かしていきたいです。

これから先、どうなるかはわからないけど、何度も書いてるように、自分の望む自分になれるように、努力を続けたいです。

出会い

倉敷古城池高校三年 吉川 江美

まずはじめに、一年生のみなさん、入学おめでとうございます。短い間ですがよろしく願います。

私が思うに、この出会いも何かの縁かもしれませんが、今まであまり深く考えたことはありませんでしたが、八正会の人たちや、クラスメート、部活の仲間などとの出会いは言いつぎかもしれません、「奇跡」かもしれません。

私は八正会に入り、夏期研修でのディベートやスタンツ、秋期研修での講演会など、たくさんさんの経験をさせてもらっています。そのおかげで今まで人前で話したり、自分のやることに自信をもてずにいたのが、自分の意見を人前で堂々と話せるように高校入学した頃よりもできるようになりました。

また、高校入学してできた友人とは、最初はお互いのことを知らず見えない距離があったが、一緒に学校生活を過ごしていくうちに、本音で話し合える仲になり、普通科ということもあり勉学が大変だけれども、毎日の休み時間の他愛のない会話が楽しくて学校に行くのが苦になりません。

三年間貫徹した部活

岡山操山高校三年 山本 成

そして、私の青春時代をほとんど一緒に過ごした部活動での仲間とは共に常に高い目標をもち、お互いにつらい思いをしたときは泣き、試合に勝ったときは笑い合い、そして喜びをわかちあいました。ある夏の猛暑日、体育館の中は熱がこもり、練習がいつも以上にきつく感じ、投げ出したくなる時がありました。そのときある後輩が「今日は一段と暑いですねえ。もう嫌になって帰りたいって一瞬思ったけど、先輩達の頑張ってる姿を見ると頑張ろうって気持ちになりました。ありがとございます。」と言われ、端から見るとお世辞に聞こえるかもしれませんが、私はその言葉にどれだけ力をもたらしたことでしょう、そして、あんなに嬉しさがこみあげてきたことを今でも忘れません。

私は、十八年というまだまだ人生の中ではたぶん半分たっていないかくらいに多くの人に出会い、色々な場面で助けてもらいました。そして、出会った人たちのおかげで今の自分があるんだと今回深く痛感し、感謝の気持ちでいっぱいです。みなさんにこれからも色々支えられ助けてもらうことがあるかもしれませんが、一年間よろしくお願います。

僕が高校に入学するとき、部活の選択に悩んだ。中学生の頃は卓球部に所属していたが、部活に集中することが億劫になり二年生の後半に辞退した。僕は高校でも同じ轍を踏まないために、運動をしながら楽しめる部活が良いと思いき山岳部に決めた。入部してからは先輩たちに厚く待遇されてテントの組み立て方や山中での地図の読み方などを教えてもらった。毎日の体力訓練は重い荷物を背負っての登りおりや学校の周辺を走ったり、土曜日は半日使って近くの龍ノ口という山を登ったりした。山に登るのは確かに辛いが、頂上に登ったときの達成感は普段では味わえない喜びだった。この調子で部活の練習や試合を熟していき、中学生の頃の部活歴を上回って二年が経過した。

高校二年生が修了する頃、同じ学年の部長から予選(山岳の試合は予選と大会に分かれていて、予選は本気で全国大会を目指す試合で、大会は県内での試合を楽しむもの)に抜擢された。その時まで予選は雲の上の存在だと思っていたが、前回の個人大会で総合二位に入賞したので実力が

認められたのだと分かった。高校三年生になって予選に仲間入りできたのは山岳部としての生き甲斐を感じるものだった。四月の大山大会と六月の那岐山大会で一位を獲り、岡山操山高校十二年連続インターハイ記録を樹立することができた。

今年のインターハイの舞台は大分で、久住山、中岳、大船山の何れも千七百メートル級の標高を誇るくじゅう連峰を三日間かけて登頂するものだった。下見のときに唯一久住山のときは快晴で、頂上からの眺めは岡山の山では見られないような素晴らしい景色だった。五日間の下見や準備を終えて、いよいよ試合が始まった。登山中の体力や歩行技術、テントの組み立て、課題テストなどあらゆる審査項目からなるべく減点を抑えて、今まで培ってきた山岳の實力をこの試合にぶつけた。チーム内での叱責や諍いも発生したが、最後まで気を抜かないよう努めた。四日間の試合が終わり、閉会式では各高校の順位が記載されている紙で自分たちの順位を確認した結果、十九位だった。幸い大きなミスはなかったが、小さいミスが度重なったことでかなり順位が下げられていた。この結果を目の当たりにして全国大会のレベルの高さを改めて実感した。

こうして僕は山岳部を引退した。最後の試合では腑甲斐ない結果となったが、自分にとって部活を貫徹することができていないのに、このまま試験を迎えるのかと、考えると不安でいっぱいです。

ところで話は変わりますが、八正会へ行くのも、後二回になりました。八正会へ入会した頃を振り返ると、最初は、本当に行くのが嫌で、友達も作れないと思いつながら、仕方なく夏期研修に行きました。先輩も皆、頭よさそうで、不安でいっぱいでした。しかし、行ってみると、同級生・先輩とも仲良くなれOBの先輩方とも、関わることができました。この夏期研修のおかげで、仲のいい二人の友達ができました。八正会だけでなく、普通の日も、連絡をとったり、遊んだりして本当大切な友達になりました。また、この夏期研修では、私たちが将来役に立ちそうな体験をすることが出来て、貴重な経験となりました。未だにデイベートや、人前で話すのは苦手ですけど(笑)そんな楽しい八正会に、現役として後二回しか、行けないと思うと、すごく寂しいなど感じています。出来るだけ多くの人と話せたらいいなと思っていますので、まだ話したことない人は、この二回までに関わられたら嬉しいです。

できたのは嬉しかった。中学生の時に果たせなかった目標を高校生でリベンジすることができた。僕は山岳部を通して一段と成長したと思う。そして来年には大学受験が待ち構えている。部活に集中している間に勉強を怠っていたが、部活も無事引退し、受験への気持ちを整った。大学受験は山に準備することが出来る。一步踏み出すことは辛いですが、実に一歩ずつ進めば頂上に辿り着く。毎日の勉強が受験合格という頂上に辿り着くことができると信じている。

八正会

玉野高校三年 中村樹里

「三年生の一年間はあつという間だ」

一、二年生の時に、先輩方に何度も言われてきた言葉を、私は今までに身をもって体験しました。進級してから、自分の進路について考えるのに必死になり、学校行事のリーダーの仕事に夢中になり、補習が始まったと思うともう七月になっていました。七月に入ると、模擬試験があり、気付くと、夏休みに入っていました。この四カ月間、何もし

変化

岡山城東高校三年 藤原亮輔

僕は人と比べると多趣味であると思っています。その分趣味に割かれる時間も多く、どうしても勉強がおろそかなりがちでした。しかし、流石に三年生となり、受験という関門が目に見えて近づき、趣味に割く時間を削り、勉強時間にあてています。そんな生活習慣、環境、心境などでの変化が三年になってから多々あります。

たとえば、部活の引退です。我が高校のダンス部は三年の引退が四月と、他の部と比べ早い引退でした。引退してからはいつも部活をしていた時間が空き、ついついだらだらしていました。しかし、夏休みが迫りこのままではまずいという思いと、親の圧力もあり、部屋に置いていたノートパソコンを部屋の外に置き、ようやく本腰を入れて受験勉強をはじめました。

しかし、そうした必要に迫られての変化だけでなく、自ら動いた変化もあります。小さなことではありますが、夏休みに入ってから早起きを実践しています。思い立ったのは、いつも早起きをしている友人がいて、早起きして勉強

すると集中できていいよ、と勧められたからでした。五時に起きるのは、朝に弱い僕にとってなかなか難しいもので、まだ固定出来るほど上手くはいつていませんが、夏休みのうちにしっかりと固定しておきたいと考えています。

必要に迫られての変化、自分の意志に応じての変化、どちらもよく考えてみると高三だから、受験生だからといった特別なものではなく今までもあった変化のうちのひとつであるように思います。そして、それはこれからもたくさんの変化が訪れるということだと思います。それらをひとつひとつしっかりと対応し、乗り越えて頑張って生きていたいと思います。

夏

津山高校三年 斎藤 莉華子

今年も夏がやって来ました。この三年間、毎年違う夏を過ごしてきました。まず一年生では、課題の量に驚きながらも普通に平凡に過ごしました。去年は、部活のキャプテンになり、人間関係に悩んだり、バンドをしたりとにかく

忙しくて、でも楽しくて、色々やりたいことに挑戦できた夏でした。

そして今年。頭の中には常に『勉強』という二文字があり、こんなに時間が過ぎるのは早いのか…。と毎日思うくらい一日、一日がすごい早さで過ぎていきます。最近よく耳にするのは『この夏で人生が決まる』とか『この夏が勝負』とか、わかっているけれど、毎回耳が痛いし心がえぐられるような感じがします。それでも頑張ろうと思えるのは、明確な夢があるからで、迷いながらやっと思えるこの夢だからこそだと思います。つい二日前に学校が終わり、休みに入った今こそ、大事な時。この夏が終わる時、やり切れた、と思えるような、人生を変えられるような夏にしたいと思います。

そして、今回の夏の研修では、ディベートでもスタンツでも三年生としてしっかり仕事をしたいです。他の学校の人達に良い刺激をもらって帰りたいと思います。自分も周りも笑顔で居られるように、この夏は大事に一日、一日を過ごしていきたいです。

周りの人の支えがあつてこそ

岡山芳泉高校三年 宮田 吉朗

「やまびこ」を書いている今は夏休み。世の中では一般的にこれを「夏は受験の天王山、夏を征する者は受験を征す」などと言う。だから僕は今、天王山を登り受験を征するために近所のふれあいセンターで勉強をしている。だいたい平均五〜六時間はこもりっぱなしだ。大体の人は学習室と呼ばれる部屋で静寂の中勉強するのだが、僕は家でもリビングで勉強しているということもあり静寂な中では集中できないタイプである。だから僕は大きくてザワザワしているホールで勉強している。(一番の理由は学習室だと音読ができないからなのだが。)

もちろん、来ている人のほとんどが老人ということもあって周りで知っている人はいない。しかし僕は日ごろから地域や近所、会う人にはあいさつをするように母に言われていたため知らない人にもあいさつはしていた。すると最近変化が起こった。来たばかりの頃は、あいさつをしてもニコリと笑いかけてくれる人もいるのだが大体の人はただうなずくだけだった。しかし最近はいさつをしたら、

うなずくだけの人はニコリ笑うようになり、ニコリ笑うだけの人は声をかけてくるようにもなったし、長話をするようにもなった。あいさつをすることの大切さをこの時ほど感じたことはなかった。今ではふれあいセンターはアットホームな雰囲気を感じられる。

中でも一番感動したことがある。ある日どうしても眠くなつた時、伏せて寝ていたらトントンと肩をたたかれ起きると目の前にアイスがあつた。なんとおじいさんが「これでも食べなさい。」といつてくれたのである。しかも今まで一度も話したこともないのに。さらに驚くことにおじいさんの手にもアイスが一つだけあつた。つまり自分ともう一人、僕の為に買って来てくれたのだ。正直、温度も快適で涼しくてアイスは食べたくなかつたのだがその時はうれしさのあまり夢中で食べた。今まで食べたアイスの中で一番おいしかった。勉強のやる気もモリモリわいてきた。

「天王山」を登り征するには決して一人では無理だと断言できる。山に登るのに何の装備もなしに登るのと同じだ。やはり、両親・友達・地域の人・先生など様々な人の支えがあつてからこそ乗り越えられるのだと強く感じた。自分の周りの環境に感謝して「天王山」を征していかうと思った。

節目を迎えて

倉敷青陵高校三年 後藤 眞依

六月下旬に棋道部での最後の試合がありました。静粛な雰囲気の中、盤を前に各人が「その一手」に思いをめぐらせる――。試合をする中で改めて将棋の面白さを噛み締めながら戦ってきました。

また、この試合では他校の一年生との出会いがありました。（残念ながら、私には一年生の後輩がいません…。）「初めての試合で、緊張してます。」とはにかみながら健闘する姿を見ると、自分の最初の試合の出来事が思い浮かび、懐かしさを感じました。

何もかもが「初めて」状態で踏み込んだ将棋の世界。練習してきたとはいえ、大丈夫だろうかという不安と緊張で一杯でした。しかも、一試合目の相手は二年生――。攻めに攻められ、呆気無く終わってしまいました。悔しさと共に自分の未熟さを痛感していると「こっちの手がもっと良くなるよ。」との声。その二年生の方は試合が終わってしまっても私に熱心に、丁寧に指導してくださいました。

それから試合で会うたびに、その先輩は「ちょっと対局

我思う、ゆえに徹夜した

岡山芳泉高校三年 石井 宏佳

困りました。書くことはありません。どうしてなのでしょう。答えは決まっています。決まりきっています。それは、今まで部活動のことばかり書いて取り繕い、題材探しという思考労働を怠ってきたからです。はどうしたのか、と意味つづ早々に作文を放棄し、デイベートのための情報収集をしていました。

数時間後、普段考えていることについて書くことに決めたのですが、具体的に何を書けば良いのかわかりません。そうこうしているうちに、時計の針が十二時を打ちました。今日は八月十日、夏期研修当日です。まだ行く準備もしていないというのに。困ったものです。言うまでもなく、この状況を作り出したのは、僕以外の何者でもないのですが。三年生の夏休みというものは中々大変なものだ。補習があるかと思えばその合間には、三者面談という名を冠した圧迫面接のようなものを受けさせられ、それらが終わったかと思えば五日間にわたって行われる校内自主学習もある。その上この期間中、予算削減につき文字通り骨だけとなっ

する？」と気軽に声をかけてくださり、私が二年生になり後輩ができる。「先輩、頑張らんと！」と激励してくださいました。先輩と過ごした高校二年生での最初で最後の全国大会は私にとってかけがえのない思い出です。

さて、部活動を引退した今、私の目の前には「受験」という壁が迫っています。しかし、部活動を通じて得たエネルギーをバネにして夢を掴むまで全力で進んでいきたいです。

「最後まで後悔の無い日々を過ごす」――。この夏、教室の後ろに貼られている七夕飾りに私が書いた目標です。秋には最後の「青陵祭」が控えており、これは三年生にとって高校生活ラストの行事です。勉強に、青陵祭に、「やりきった！」と振り返ったとき満足する結果が残せるよう高校生活を送っていこうと思います。

最後になりましたが、毎月多額の奨学金を本当にありがとうございます。八正会での活動も残すところあと少しとなりました。先輩方や後輩たちとの出会いを大切に、心に残る思い出をつくっていききたいです。



た耐震補強工事も進行中で、そのけたたましい騒音は、見事に受験生たちの集中力を削いでいく。元から削がれて困るほどの集中力を、その受験生たちが持ち合わせていたかどうかについては、あえて触れまい。しかし先生、「この騒音の中で勉強すれば、集中力と忍耐力が身につく。」というのには、いくら何でも無理があるのではないか。しまいには、休み時間に女子生徒たちが、格好の良い工事作業員のお兄さんを探しあぐねる始末。次の登校日の朝に、教室の下にある洋風庭園―実際は、ただの砂利敷きの駐車場―から工事作業員の人たちのラジオ体操の音が聞こえないことを、切に願うが叶うことはなさそうだ。

こうやって駄文を書いている間にも、大学受験の期日は刻一刻と迫って来ています。大学生活に対する展望が広がる一方であるのに対し、受験勉強への不安も広がる一方です。この時期になって、学科の志望が揺らいだり、授業の意義について考えたりすることは、あまりにもありません。ですが、結局は妥協し、享受することになるのでしょうか。でも、妥協せずに追求していくことの方が、より価値のあるものだと僕は思います。

たとえば、授業内容について考えてみると、中々面白いものがあります。高校の世界史は万国史と言った方が正しいとか、問題解決学習を取り入れるべきか否かといった話

です。大学に入ってからしつかりと考えていけたらいいと思います。

一日の早さのおそろしさ

岡山芳泉高校三年 安井彩果

私は寝るのが大好きだ(笑)。スキマ時間さえあれば勉強ではなく寝てしまう。みなさんはどうだろうか?部活が忙しいうえに、週末課題まであつて……寝ている暇なんてない!という人がほとんどののかもしれない。

私は部活を早くにやめてしまったので今まで十分に時間があつた。

あら……私は今まで何をしていた!?

:

寝ていた。

今となっては全く笑えないことである。

高三の夏。自分の思うように勉強がはかどらずイライラしてしまっている夏。一言で言うところ「つらい夏」。一日最低十三時間勉強。聞いただけで倒れてしまいそうな数字で

ある。集中力の続かない私にそんなに毎日こなせるだろうか。いや無理だ。私の受けようと思っている大学は英語が中心なので、とりあえず今は一日五時間は英語に費やしている。そこでここ最近思うことは一日があまりにも短いということだ。計画表では一日五教科するつもりが、満足するまでやろうと思うと一日二教科しかいかない。毎日そんなだと焦る。自分はこのままでいいのか……。不安になり、先輩に質問をした。先輩は「高三生にとってこの夏不安でいられない人しかいないよ。そういう時にどれだけコツコツ続けていけるかが大切だよ。不安をバネに頑張れる人が勝つ人だよ。」と。私はこの言葉にやる気をもらった。そして自分のペースで自分のやり方でやっていこうと思った。やっぱり人の言葉はすごい!!

私も落ち込んでいる仲間がいたら、自分の言葉で勇気づけてあげたい!と思った。

もちろん勉強も自分の将来のために頑張るぞ!!

乗り越えた先

岡山操山高校三年 佐伯映美鈴

とうとうこの日が、この時がやってきた。私が直後に感じたことです。その時は、ただただ悔しくて涙を止めることができませんでした。

私にとって高校最後のハンドボールの試合は、倉敷天城に二十五―十七で敗れました。この一戦には多くの人の想いが詰まっています。それはもちろん両チームとも背水の陣であることもそうですが、一つは、相手チームの監督は、私が入学してから二年間教えてもらっていた先生だったということ。そしてもう一つ、私が三年生になってから指導してくださっている先生の前任校とこの準決勝の前に戦い、その人たちの悔し涙も背負って戦うということでした。そして実は、天城高校とは冬に中国大会出場をかけて戦ったことがあり、その時には勝つことができたので、今回も絶対に負けない試合でした。

試合開始の笛が鳴りました。私はキーパーなので、オフエンスの時はいつも後ろから見守っています。やはり、この時は普段以上の緊張を、みんなの背中から感じとれまし

た。それは、両チームに共通していました。

まだコート内に緊張と勢いがぶつかり合うなか、開始五分でアクシデントは起きました。私以外のプレイヤーで唯一三年生であり、ゲームメーカーのキャプテンがけがをしてしまいました。一瞬、私は後輩に声をかけなければならぬ立場であるにも関わらず、頭が真っ白になりました。私の心の中に当たり前にあったものを奪われてしまったようでした。しかし、思わぬ所に救いの手はさしのべられていました。

「みんなで守ろう」

一人の後輩の一言が私を奮い立たせました。何度もめげずに攻めようとする姿、積極的に声を出して走る姿……すべてが私に勇気をくれました。ピンチの時に出せるあの結束力はどこにも負けていなかった、と断言できます。

後半になると、キャプテンはテーピングで足を固定し、無理をして試合に出てくれました。どんなに点をとられても、誰一人として諦めてはいませんでした。ベンチからも応援席からも、声を枯らして叫んでいました。

それでも相手には追いつきませんでした。私はひたすら自分を責めました。もっとみんなを助けられたんじゃないかと。でも、周りの人は、三年一人でよくやった、よく周りが見えていた、と声をかけてくれました。それから自分

でも、「やるだけのことはやった」と思えるようになりました。

仲間が何人もやめたり、けが人が多くて試合を棄権したり、一人で八人も後輩を引っぱったり、先生が変わったり……全てのこと鮮明に思い出されます。あまりにもあつがなく終わってしまったけど、後悔はありません（そう言えるまでは時間がかかりましたが）。これだけ熱中するものに出会い、それに協力してくれたすべての人に感謝しています。改めて私は幸せ者です。

「ワンピース」の言葉

岡山朝日高校三年 橋野 弘道

前々回に引き続き、今回もマンガ「ワンピース」の心に残る言葉、深いイイ言葉をいくつか紹介しようと思います。「おれがなるって決めたんだから、そのために戦って死ぬんなら別にいい。」

これは主人公ルフィの言葉です。この言葉には、ルフィの揺るぎない覚悟がはつきりと表れているように思います。

最初の一步

岡山朝日高校三年 影山 俊介

この間、テレビを見ていました。『Going』というスポーツ番組で、KAT-TUNの亀梨君がホームランプロジェクトをやっていました。それは、プロ野球選手のすごさを伝えるプロジェクトの一環で、野球素人の亀梨君でもホームランが打てるのか？という企画でした。彼はプロジェクト最初となるフリーバッティングの時には外野にも飛ばせませんでしたがおよそ二、三年の間に多くの選手からバッティングの極意を教わり、途中挫折することもありました。最終的にホームランを打つことができました。それを知ったプロの人達も驚いていました。よほど意外だったのでしょうか。その時は僕が受験勉強を始めた頃で、まだ先行きも分からなかったのですが、亀梨君の快挙になぜか僕もうれしくなり、元気をもらって勉強を始めました。

僕も予想していませんでした。あの細くて小さい亀梨君がホームランを打つには、番組の企画で読売巨人軍のグアム自主トレに参加したりと、本人も相当努力したのでしょう。筋力がついたせいで、KAT-TUNのコンサートの

「死ぬ」というのは今の私達にとっては少し大袈裟かもしれませんが、それぐらいの強い信念を持つことは大切なことです。どんなことでも、自分がやると決めたときは、自分の言葉に責任を持ち、最後まで諦めずに成し遂げようという気持ちを抱くことが、まず大事なことです。

「最強の剣」とは：守りたいものを守り斬りたいものを斬る力、触れるものみな傷つける様な剣は、私はね：「剣」だと思わない」

これはルフィの仲間であるゾロの師の言葉です。日本の武士道精神が表れていて、自分の中でもすごく好きな言葉です。人間の真の強さとはどういうものかを教えてくれているように感じます。

「長い間!!!くそ世話になりました!!!この御恩は一生：!!!忘れません!!!」

これは麦わら海賊団コックのサンジの恩師への感謝の言葉です。普段、私達は心の中では感謝の気持ちがあっても、それを言葉にしたり、忘れないでいることはなかなかできることではありません。だからこそ、この言葉には奥深さがあり、心に残ったのだと思います。みなさんも親への感謝、そして友達や先生、周りの人々や地域などのあらゆるものへの感謝を忘れずに、言葉に表せるときは、きちんと言葉に表してみてください。

衣装のズボンがきつくてはけなくなつたと言っていました。

亀梨すら且つホームランを打つ、況んや僕たちをや。凡人で素人の亀梨君でさえプロ級の大きなことをやってのけたわけだから、まして同じ凡人の僕たちができないはずはありません。凡人が達人になるのは努力によってではないことはみなさんも知っているでしょうが、分かっているながら最初の一步はなかなかみ出せないものです。そんな時は自分の心の支えを探して、それを胸に一歩ずつみ出していこう！

僕ももう三年になり、後輩の人たちにかっこいいこと言いたいなあと思っていたのですが、自分の人生経験の浅さと文章力のなさが響いてしまいました。大したことは言えませんが、最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

近況報告

明誠学院高校三年 岡本 拓人

暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょう

か。やまびこで毎回恒例(?)の僕の近況報告をさせていただきます。

第一に、八月十二日に倉敷市民会館にて吹奏楽コンクールの岡山県大会がありました。このコンクールでは出場校の中から上位五校が中国大会の岡山県代表として選ばれるのですが、僕の学校は二位という高成績で代表になりました。

そして、八月二十六日に倉敷市民会館で中国大会。この大会では、中国地方の代表校の中から上位三校が十月に名古屋で開催される全国大会へ選抜されます。昨年、一昨年と僕はこの中国大会で涙を流しました。今年で最後という事で例年以上に気合いが入っていました。結果は、見事三位で全国大会の切符を手にする事が出来ました。仲間全員で力を合わせたので、結果発表後は皆で喜びの涙を流しました。

次になる目標は全国大会!!ですが、その他にもたくさんの行事があります。九月に入ると演奏会が何回かありますし、何より二期期が始まります。部活だけでなく勉強面や生活面でも怠けることなく、「受験生」の自覚を今まで以上に感じて毎日を過ごしていきます。そして、悔いの残らない高校生活を送っていければと思います。

全国大会では必ず金賞を受賞します!という決意表明を

する人以外の人の特集をしていたのが印象に残った。後輩に自分のグロブ託す先輩、レギュラーになれなかったが応援席で一生命仲間を応援する人、選手たちをサポートするマネージャー。それぞれ役割は違うが、自分にできることを精一杯していた。一人一人が輝いていて、全員が主役のように感じた。僕は、彼らから多くのことを教わり、そして感動をもらった。

ふと自分自身のことを考えてみると、彼らのようにがむしゃらに頑張っていない自分が恥ずかしく思えた。ああ、もうだめだとか、勉強したくないと思う時もあるが、こういう頑張っている高校生達を見ると自分も負けていられないという気持ち湧いてきた。そして将来の夢を叶える為にもがむしゃらに努力していきたいと思った。

して、今回の僕の近況報告とさせていただきます。有難うございました。

…宿題しなきゃな。

猛暑に思うこと

倉敷青陵高校三年 藤 堂 政 行

今年の夏は記録に残る猛暑となった。そんな中、高校野球が甲子園で開催されている。僕は、毎日球児たちの暑さに負けずにプレーする姿に釘付けになっている。

約四千校の中から勝ち残った代表だけあって、どの試合もレベルが高く白熱する試合になっている。いったいここまで辿り着くまでにどれほどの努力をしてきたのか……。それは想像を絶すると思う。プレッシャーや、葛藤、レギュラー争い、挫折。そういう様々な壁を乗り越えてきたに違いない。だからこそ彼らにしか味わうことができない気持ちがあったり、見ている人を楽しませ感動させることができるのだと思う。

深夜に熱闘甲子園という番組があつて、グラウンドで活躍

2013 夏期研修会日記 < その1 >

平成 25 年 8 月 10 日～ 12 日におこなわれた宿泊研修の内容を紹介します。

8月10日(土)

閑谷学校 入所式
3年生の代表の挨拶では「一回り成長して帰ります」と頼もしい言葉がありました。



野外炊事
猛暑の中、火をおこしカレーライスを作りました。みんなで作ったカレーは美味しかったね!



備前焼作り
備前焼の先生より指導を受けながら思い思いの作品を作りました。出来上がりが楽しみです。



レクリエーションと交歓会。
レクリエーションの後、自己紹介をして親睦を深めることが出来ました。



8月11日(日)

ラジオ体操
眠い目をこすりながらの体操で身体のスイッチオン!!!



朝食
毎食、美味しく頂きました。ラジオ体操の後のゴハンはおいしいです!



平成25年度 夏期研修会日程表

公益財団法人 八正会

8月10日(土)		8月11日(日)		8月12日(月)	
		6:30	起床	6:30	起床
		7:00	朝のつどい (プレイホール)	7:00	朝のつどい (プレイホール)
		7:30	朝食	7:30	朝食
8:50	岡山駅市営駅南駐車場 集合	8:20	清掃 ディベート部屋準備	8:20	清掃
		8:40		8:40	部屋点検
9:00	バス出発 閑谷学校へ	9:00	ディベートについて 講師 西口先生	9:00	ボランティア活動
		10:00	グループ討議 (視聴覚室)	10:00	ブライントツアー
10:30	入所式 (プレイホール)				
11:00	入室・移動	11:00		11:30	着替え
11:30	野外炊事/カレー (第3炊事場)	12:00	昼食 休憩	12:00	昼食 休憩 (視聴覚室準備)
		13:00	ディベート (視聴覚室)	13:00	感想文 (視聴覚室)
		14:00		14:30	退所式(プレイホール)
15:00	備前焼 (ロッジ)	15:00		15:00	閑谷学校 出発
		16:00	スタンツ話し合い (視聴覚室)	16:00	岡山着 解散
17:00	移動				
17:30	夕食	17:30	夕食		
18:30	レク&交歓会 (プレイホール)	18:30	レク&スタンツ発表 (第3～第5研修室)		
	(自由交歓・スタンツ話し合い)	20:30	入浴		
21:00	入浴 (自由交歓・スタンツ話し合い)	21:30	自由交歓		
22:00	就寝	22:00	就寝		

八正会 HP にも掲載しています。 <http://www.hasshoukai.or.jp>

2013 夏期研修会日記<その2>

8月11日(日)

ディベートテーマ ①「高校生に体罰は必要である」は 是か否か
②「土曜日授業は必要である」は 是か否か

いよいよ恒例のディベートです。西口先生の説明を聞いた後、班ごとに肯定派、否定派の立場で討議しました。



討論開始。
立論⇒反対尋問⇒最終弁論と難しいながら、しっかりとした討論が出来ました。



スタンプ発表
今年は、6チームで競いました。
お笑いからダンスまで、頑張りました〜♪



8月12日(月)

朝食後ボランティア活動。
暑い中の作業でしたが、みんなで協力して石橋をピカピカに磨き上げました!



ブラインドツアー
目隠しをして、山の中をロープをたどって歩きます。怖かったけど、貴重な体験でした。



40人のメンバーが集っての研修会はあっという間に終わりました。
学年を越え、学校を越えて新しい仲間がたくさんでき
楽しい思い出がたくさん出来ました。

OBOGの皆さん、貴重なお話をありがとうございました。
来年もぜひ来て下さいね。
待ってます!!

夏期研修会を終えて

玉島高校一年 宇野美咲

初めての二泊三日の夏期研修、とても楽しく、勉強になりました。来る前はとても緊張していてもあまり行きたくないと思っていたのですが、班活動などで皆と接するうちに来る前の「行きたくない」という気持ちはすっかり消えてしまいました。

今回の研修で一番勉強になったのはディベートです。小学生くらいのときに簡単なのを一回したきりだったので何をすれば良いのかもわからないし、難しそうで不安でした。私達の班は「土曜授業に反対」という側で少し難しかったのですが、先輩達がひっぱってくれたおかげで良いディベートになったと思います。結果は僅差で負けてしまったのですが、皆で真剣に意見を出し合っ立論などをまとめたことはこれからの高校生活でもたくさん力になる場面があると思うので、活かしていきたいと思います。

また、一番楽しかったことは野外炊事やスタンプ、ブラインドツアーなどです。ほとんどの活動が一、二、三年生の混ざった班活動だったので、先輩方はとても気さくに

優しく接してくれ、嬉しかったです。野外炊事も皆で作ったのでより一層、おいしく感じました。作っている間も役割分担をして手伝いあったりして、楽しかったです。スタンプでは練習のときからとても楽しかったです。私はほとんど出番のない役をしたのですが、先輩方を見ていると皆本当に凄くて見習いたいと思いました。他の班もとても面白く楽しかったです。

三日間、本当に楽しく、勉強になりました。普段の高校生活で活かせることもたくさん学んだので活かしていこうと思います。楽しかったので帰りたくないけれど課題の山が待っているので帰らないと…。次の秋の研修も楽しみです!

夏期研修会を終えて

倉敷古城池高校一年 吉川智也

八正会に入会して初めての研修会で最初はとても緊張しました。前日の時には、友達ができるかとても不安でしたが、先輩方や同期の人たちが話しかけてくれて研修の

初日から不安を抱えず、いつも通りの自分で過ごす事ができました。OBの方もわからない事があつたら詳しく説明してくれてとても安心しました。

研修を終えて自分はとても良い思い出ができました。一つは野外炊事です。研修で最初の行事で緊張したけど、周りの人が優しく接してくれたのでとてもうれしかったです。二つ目はデイベートです。みんなが持って来た資料を参考に意見を出し合いながらテーマである「高校生に体罰は必要である。」の賛成の事について話しました。結果は負けましたけど、班のみんなとの交流が深まりそれがなにより一番うれしかったです。

来年もこの研修会に参加し、友達との絆をより今より深めていきたいです。また、今回の経験を活かし、将来この経験で学んだ事が役立つように今後も頑張っていきたいです。

夏期研修会を終えて

岡山工業高校一年 高橋 聖

今回の夏期研修は初めてで、最初他の人と仲よくできるかとても不安だったけど、結構話とかすることができてよかった。それに、楽しかったです。今まで同じ学校じゃない人達で泊ったりすることはなかったのいい経験になったと思います。中一の時に閑谷研修があつたのでなつかしい感じもしたけど、野外炊事のやり方とか全然覚えてなくて、焦りました。でも、班の方々と協力しておいしいカレーを作ることができて本当によかったです。備前焼も何回かつくったことあるけど、全然うまくできなくて残念です。でも、若干でき上がるのが楽しみです。二日目のデイベートは本当に初体験でした。とても難しかったです。全然わからなくて班の他の人にまかせつきりだったので申し訳なかったです。これで少しはデイベートのやり方がわかったのでよかったです。二日目にあつたスタンプはすごく緊張しました。今まで人前にたつておどつたり、変な事？したりしたことないので、とても緊張しました。でも、他の班の劇とかコント的なのとかめっちゃおもしろかったし、楽

しかったです。三日目のボランティアはなかなか思ってたよりコケがおちなくて驚きました。でも結構キレイになつたので気持ち良かったです。ブラインドツアーは、目隠ししてたので前が全然見えなくて怖かったです。前の人にぶつかつたり、木にぶつかつたりして大変でした。でもこれで目の見えない人の気持ちが少しわかつたのでよかったです。

この三日間で今までやったことないことが色々経験できてよかったです。ここで学習したことを今後活かせるよう頑張りたいです。あと色々な人と話すことができて楽しかったです。

夏期研修を終えて…

操山高校一年 佐伯 拓馬

僕は四月に集まつた時は知り合いは姉と偶然話していた吉川君しかいませんでした。しかし、今は一年生は全員だけでなく、男子はほとんど全ての人のフルネームを覚えて、仲良くなりました。

一日目は野外炊事とレクリエーションがメインで、野外炊事ではカレーを作り、カレーを三、四杯いただきました。僕はかまどの担当でご飯を炊き、焦げ目はほんといいぐらいで、とても上手に炊き上がりました。そこで三宅さんと初めて話し合つて優しい人だということを知りました。レクリエーションでは三位で特に「新聞乗り」と「持ち物つなぎ」が印象的です。まあ、菓子を班でもらつたんですが（景品として）班の人から菓子もらつたのは一日目の時にババアラーマンというベビースターもどきもらつただけです。多分、二日目のお菓子は班長が食べました。（笑）二日目はスタンプとデイベートでスタンプはおもいきりスベツてしまいました。デイベートは藤原君（兄）と火花を散らして、最後に味方である後藤さんがあっさり斬り捨てました。

三日目はコケ落としと目かくしウォーキングです。（？）コケ落としの後に甘くておいしいスイカを十切れ近くもらいました。目かくしウォーキング後に遊具を二制覇して汗だくになりました。

夜に怒られたり、コーンスープで怒られたんですが、夜はおフロと談笑とトランプが最高に楽しかったです。大富豪で十人の中で富豪になって楽しい気分です。部屋に戻って、OBの方のくださつたアイスを食べました。こん

なに楽しい研修だと想像していませんでした。一番は大毅という強烈なインパクトのある人物に会ったことです。来年は参加は難しいと思いますが、是非来たいです。

夏期研修会を終えて

倉敷青陵高校一年 岩田 真央

私はこの夏期研修会を終えて、一番思うことは、とても楽しかったことです。なぜなら、一つ一つの行事が内容が濃くて、班の人ともしっかり協力してできたからです。

まずは野外炊事で、班の人と仲良くなりました。火をおこしてくださる頼もしい三年の先輩、とても気遣ってくださる先輩。とても優しく、良い人ばかりだと心から思いました。カレーの方も、目を痛めながら作ったので、さらにおいしかったです。

初めてのレクリエーションでは、お菓子がもらえるという情報を伺い、さらに燃えてしまいました。高校生になっても、昔よくやった遊びや、競争になると大変盛り上がり、

年の先輩と親しくなれて、本当によかったです。たくさんはなしたり、組み体操をしたりと、いい思い出です。

この夏期研修会は、本当に参加させていただく価値がとでもあり、さらに成長できる、とても穏やかで、かつ面白いわいしていて、良い方ばかりの、楽しい研修会でした。三日間お世話してくださった方々にも感謝し、そして来年、楽しみにしています。

夏期研修会を終えて

倉敷青陵高校一年 蘆原 薫

私は、今回は内心行きたくない気持ちがありました。理由は、知らない人（一年に同じ中学・高校の女の子を除く）ばかりで、絶対話せないし、おどおどして迷惑をかけるだけだと思ったからです。

しかし、行ってみると、入会式でできていた通り楽しいこともたくさんありました。先生は優しく、先輩は面白くて明るく、一年生の人達は女の子としか話すことができませんでしたが、楽しい人達ばかりでした。ディベートは

幼少に戻ったようでした。

しかし二日目は、ずっと緊張していました。ディベートと、スタンツ発表です。ディベートでは、絶対に有利だと思っていた、「体罰否定側」についてなのですが、これが以外と難しく、難しい賛成側といい勝負でした。人前で話す大変さも分かりました。スタンツ発表では、気合いを入れて、これまたお菓子があるということもあり、我を捨ててハイジをしました。班長のおじいさんの活躍、他のメンバーの一生懸命な演技が一つになって、二位をいただきました。緊張したけど楽しかったです。

最終日では、ブラインドツアーが印象的です。頼もしい班長、常に気を遣ってくださる先輩方のおかげで、楽しくゴールできました。また、手さぐりの状態が、どんなに不安で怖いのかも、よく分かりました。

しかし、行事以外にとっても良かったのが、食事と寝る前です。

食事は、普段食べるよりも量が多くて、食べれるか不安でした。しかし、私たちのために、ご飯を作ってくださいました方々の努力を無駄にすることはいけません。ゆっくり、とてもおいしくいただきました。ご飯は本当においしかったです。ありがとうございました。

寝る前の部屋では、一年生女子みんなと仲よく、二、三二日目にありました。私はやりたくないなのでボーっとしていたら、時間だけが過ぎていき、最後の最終弁論の係だったのですが、緊張しすぎて声が震えまくってホワイトボードにもつまづいて、グループの人にあまり貢献できていないことに気付きました。それからの行事ではなるべく大きな声を出して、コミュニケーションをとれるよう努力しました。スタンツでは、グループの方々が身をはって熱演してくださいだったので、一位をとることができました。ありがとうございました。ありがとうございました。

自分達が主体となる行事以外で楽しかったのは、一日目のレクリエーションの時間でした。新聞紙の上に乗るやつや、四文字の言葉を一齐に言って当てるゲームが中でも特に楽しかったです。次回の夏の研修会でもぜひやりたいと思います。

今回のグループの方々と行動できて、とっても楽しかったですし、とっても有意義な時間を過ごすことができました。

そして、新しく友人や先輩方のつながりもでき、恥ずかしくて緊張していたのですが、たくさん話したり一緒に行動することができて、色々な勉強をさせていただきました。

これからも、学校行事などのどうしても行くことができないとき以外は、参加したいと思います。

夏期研修会を終えて

岡山朝日高校一年 濱 田 恵理香

夏期研修で閑谷学校へ行きました。最初バスの中では友達ができるかなと不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安も積極的に声をかけたりすることであつという間に吹き飛びました。みんなフレンドリーな人ばかりで話をすることが本当に楽しいです。そしていろいろな高校から集まっていることもあり、話が盛り上がります。同級生だけでなく、先輩方ともたくさんの方と仲良くなる事ができて本当に嬉しかったです。

また、たくさんの方の貴重な経験をする事ができました。特に心に残っているのはデイベートです。先輩方の立派な姿に驚かされました。みんなの意見をまとめたり、人前で堂々と発表したりと積極的な姿勢を私も見習いたいと感じました。

いろいろな体験をすることができたこの三日間、私は夏期研修に参加して良かったと感じています。初めてのことも多くて最初は不安だらけでしたが、終わってみると本当に充実した三日間になりました。多くの貴重な体験や新

しいたくさんの方との会話などこの夏一番の思い出です。

夏期研修を終えて

岡山一宮高校一年 河 本 柚 月

三日間、ずっとひとりぼっちだったらどうしよう……。行く前に心配していたことが、今では嘘のようです。三日間の活動の中で色々な話をする事で、ひとりぼっちにはならずになりました。新しい友達もできたのではないかな、と思います。

この三日間で、私は多くのことを学びました。誰かと協力すること、自分の考えを伝えること、自分で考えて動くこと等です。どれもできてあたりまえ、日常生活でも行えていると思っていました。ですが意外と身についておらず、自分の未熟さを痛感しました。そんな中で、私が一番身についたと思うことは『人と協力すること』だと思います。

私は、知り合いがたくさんいる場所ではよく喋り、よく笑うのですが、知らない人がいるところでは途端に静かになります。今回も例にもれず、いつもの三十分の一ほどの

力しか出していませんでした。自分の考えも言わず、どんくさくて役に立たない。今思えば、最低な奴です。ですが、野外炊事、備前焼、レクと一日目が終わるころにはだんだん思ったことも言えるようになってきました。黙っていた

スタンプの話し合いにも少しは参加できて、少しずつ楽しくなってきました。話ができるようになると、困った時に助け合うこともできるようになりました。

気の置けない友達との学校生活ではあたりまえで、それ故に重大さに気が付かなかった『協力』の二文字。新しい環境の中に飛びこみ、その二文字の難しさと大切さを学びなおせた気がします。それを何度も繰り返し返すことで、改めて身につけることができました。これからの日常生活でも活かしていきたいと思います。

至らぬ私で、たくさんの方の失敗もしました。ですがそこから得る物もたくさんありました。これからはもっと頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

ありがとうございました。

夏期研修会を終えて

倉敷古城池高校一年 酒 井 彩 夏

私は、本当はこの夏期研修に来るのが嫌でした。二年・三年生の先輩や、同級生の人たちと仲よくなれるかどうかとても不安でした。でも、同じ班になった先輩が色々話しかけてくれたり、優しくしてくれたり、分からないことを教えてくれたりしたので不安がだんだんなくなっていきました。部屋では、同じ班の先輩だけでなく他の先輩も親切にしてくれたのでとても助かりました。ありがとうございました。また、OBの人にも分からないことを教えてもらいました。とても感謝しています。そして、この三日間を通してたくさんの方と友達になりました。いつのまにか私の不安は、なくなっていました。今では「来てよかった。」と心から思っています。

私がこの夏期研修で一番楽しかったのは、スタンプです。私たちの班は、イケメンマリオという題名の劇をしました。私はクリボーを演じました。実際演じてみてとても楽しかったです。清水先輩のボケと中村先輩のツッコミ、すごくよかったと思います。練習しているときから何回も見えてい

たけど、全然あきませんでした。面白かったです。スタンツは発表するのも楽しかったけれど、他の班の発表を見るほうが楽しかったです。他の班も、すごく上手でした。音楽をかけたたり、ダンボールを使って家や窓をつくったりして、とても工夫していました。どの班の人も一生懸命していたのでとても楽しく盛り上がることができました。だから、一番楽しかったと思いました。

他の体験でも色々学んだり感じたりすることができました。本当に来てよかったです。来年も絶対参加します。

夏期研修会を終えて

岡山東商業高校一年 合田 紗也

OBの姉から「楽しい!!めっちゃ楽しい!!」と聞いていた夏期研修会。本当に楽しいのかな、友だちできるかな、不安だあああ、と書いていました。

一番始めの集合の時、声をかけようか悩んだ末、勇気を出して声をかけました。それで、その子とバスで隣に座って研修中も一緒に笑って過ごしていました。研修が終わって

今考えると、あの時声をかけてよかったと思っています。楽しく過ごしたいのなら自分から。は本当に当たっていると思いました。

だんだん周りの一年生にも馴染めていけて、それと同時にどんどん楽しくなっていました。冗談も言い合えるようになり笑顔も増えていきました。

そして、二日目のディベートの時の記憶が忘れられませんでした。先輩方がいつもの楽しく話している時と別人で、とてもかっこよく見えたことが頭の中に残りました。たった一・二歳しか変わらないのに先輩が大人に見えました。話し方、知識の多さ、意見をまとめる力、文章の作り方、全てに憧れを抱き、尊敬しました。来年は二年生になってあんな風になれるのかな、という不安と、なつてやる!というやる気が生まれました。あと二年経つまでに、しっかりと勉強していろんな事を学び先輩のようになります。なつてやる!!

この夏期研修で勇気を出してよかった、と思う事がいくつもありました。勇気は周りの状況が変わり、そして自身を成長して変わっていく。これから学校でも八正会で学んだことを活かして進んでいきたいです。

最初の不安はいつの間にか消えて、今は早く次の研修で八正会の皆さんに会いたい思いでいっぱいです。

夏期研修会を終えて

倉敷天城高校一年 水川 碧

夏期研修会を終えた今、一番に思うことは先生方、OBの方、先輩方、一年の皆への感謝の気持ちです。皆さんにとってもとお世話になりました!

行くことのためらいのあった八正会の夏期研修でしたが、行ってみると最初の方にあつた緊張はとれていきました。班のメンバーと協力もでき、楽しむことができていたのですが、私は体調不良で活動にあまり参加することができませんでした。そんな私を助けてくださったり、気を遣って下さったのは先輩方でした。私を心配して声をかけてくれたのは一年生の皆でした。とても感激しました!初対面である私を気にかけてもらえとは思わなくて、とても嬉しかったです。八正会にはこんな素敵な方々が集まっているんだなと感じました。本当にありがとうございました。

さて、初めての夏期研修会ではその「質」の高さも感じました。

ディベートでは、先輩後輩関係なく意見を出し合い、肯定側否定側それぞれ対策を練りました。一番最年少である

一年生の意見も耳を傾けて下さる先輩方には驚きました。初めてのディベートはすごく充実した時間を過ごすことができました。

今回の夏期研修はすべてが印象的でした。体調をくずし、参加できないことも多々ありましたが、その度にたくさんの方々に助けられた二泊三日でした。入所式のときに「一皮むけて帰って下さい。」という言葉に内心、本当にできるのかな...と書いていましたが、終えた今、以前とは少し変わった自分があると思います。夏期研修に参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校一年 安井 佑果

私がこの夏期研修会で一番心に残っている思い出はスタンツだ。

一日目の夜、班の皆が集まって話し合いを始めた時はなかなか決められず雰囲気もあまりよくなかった。班の雰囲気がよくなかったので私自身もどんどんマイナス思考にな

ってしまったってきいてた。

しかし、隣の班ではどんな話が進んでいて皆がとてもしきいきとしていた。そこで私も隣の班みたいに良い班にしたいなと思い、思い切って意見をどんどん出してみた。すると、皆が少しだけやる気になってくれてとても嬉しかった。一日目の夜のスタンプの話し合いを通して何でもいいからとにかく声・意見を出すことが大事だなと感じた。そして本番一時間前、デイベートや話し合いを共にしてきたおかげか班の雰囲気は良くなっていてほっとした。共に仲間と作業をするのはいいなと感じた。

本番はとても緊張したけど班みんな楽しんでできて本当に良かった。

三日間というとても短い間だったけど班の結束力が強まったのを感じることができた。

デイベートは難しかったけど先輩がたくさんの事を教えてくれて、とても勉強になった。高校でもあると思うので活用したいと思う。

あと、最初は友達ができるかとても不安だったけど話しかけてくれて、とても嬉しかったし楽しかった。さらに友達の間が広がり、いろいろな事が知れたので来て良かったなと心から思った。

この三日間という短い間でたくさんの事が学べられて来

僕は全然意見が出せなかったのですが、先輩方が引っ張っていつてくださったので、本当に感謝しています。

デイベートでは、どんな感じで進めていたりするのか全然わからなかったのでも緊張しました。どこの班も資料から自分達の班に何が必要で相手に対しての質問などを考えていて、自分は思いつかなかったようなことばかりが出てきてすごいなと思ったり、来年や再来年はこういうことを言い出すことができたらいいなと思いました。

僕はこの会に行く前はめんどくさいなと思っていましたが、今では楽しかったり世界も広がったので行って本当によかったと思います。

夏期研修会を終えて

玉野光南高校一年 三宅 晟

僕にとって初めてとなるこの夏期研修会では、いろんな体験をすることができました。

行きのバスの中で知る人もおらず、ただ不安しかありませんでした。しかし同じ一年の男子はかなり友好的で、す

る前よりも、自分の中での心境の変化があり八正会は共に成長しあえる場だなと思った。

今回の研修会で学んだことを今後の学校生活に活かしていきたい。

夏期研修会を終えて

岡山朝日高校一年 藤原 淳平

僕はこの八正会の夏期研修会ではじめの方は知っている人もほとんどいなくてとても緊張して過ごしていました。

しかし、そんな心配は必要なく八正会の人達はとてもなじみやすく接してくれ助かりました。

班での活動では、なかなか自分から進んで行うということができなかったのですが、一年で得たこの経験を来年はむだにしないように自分でできることを行っていきたいと思えます。

どの班活動も楽しかったのですが、その中でも特にスタンプはすごくおもしろかったです。すべての班が自分達で考えたにもかかわらずおもしろくてすごいなと思いました。

ぐに話すことができました。

野外炊事では、カレーを作るために班の人と協力することができ、先輩方も話をするので嬉しかったです。その日の夜のプレイホールでのレクでは、班のメンバーとの仲をますます深めることができました。

二日目のデイベートは、僕の人生上初のデイベートとなりました。何をすればいいのかよくわからず、あまり話し合いに参加することができませんでした。なので、来年からは積極的に発言ができるように努力します。実際の討論では、どれだけ準備をしても、相手の反対尋問に対してうまく返答できていなかったもので、デイベートというのはすごく難しいことだと実感しました。そして、その日のスタンプではこの三日間で一番恥を捨てた挑戦をしました。劇の中でオカマの豚を演じました。そして、そのおかげか、完成度の高い稲葉とキンタロー。がいてくれたおかげなのか、スタンプで一位を勝ち取ることができました。恥ずかしくなかったけど、達成感があってよかったです。

三日目のブライントツアーでは、班の人と一緒に協力して楽しく行くことができました。

最初は不安だった夏期研修でしたが、行ってみると本当に楽しかった三日間でした。

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校一年 松村 優

この夏期研修会、本当に来て良かった！

八正会の入会式に先輩方が絶対に来て損はないとおっしゃっていた事は嘘ではありませんでした。

——一日目。

緊張しながらバスに乗り閑谷についてしまいました。班分けが発表され、メンバーの人たちとの顔合わせ。そして野外炊事。野外炊事は涙と汗を流しながらカレー作りを頑張りました。メンバーの人たちとはまだあんまりしゃべれなかつたけど顔と名前を覚えました。夜のレク。楽しかった！なんとなんと私たち二班はゲームで一位をとって大量のおかしをゲット。その後の自己紹介で八正会のメンバーの人たちと一気に距離が縮まった気がします。一日目はまだみんなとなじめないでいました。

——二日目。

デイベートは今回初体験でした。先輩たちの頭の良さに驚きました。自分の意見を言葉で伝えることの難しさも知りました。とてもいい勉強になりました。そして最大の山

行事で宿泊研修にきたというくらい楽しく過ごせました。

あと、毎食つけ物がでてきた時に松村さんにつけ物処理をするのがお腹いっぱいまで苦しかったけど、おもしろかったです。ただ松村さんと私は同校バスケット部ののにこの三日間体力をつけるための筋トレや運動をしなかった事が唯一の心配事です。どうしましょう(笑)

スタンプでは、結構、相当、楽しめました。自分たちの分はもちろん、他の班の分もおもしろかったです。順位はさておき、お菓子があんまりもらえなかったのは残念でしたけどね!!!もうお菓子持参必須ですね!!

あとは…私のバカはきつと誰にもバレてないと信じています(、ε、)

素敵な先輩にもたくさん出会えましたし、同級生もみんな個性的でおもしろいです☆

もう本当に来年の夏期研修会も楽しみで楽しみで!!とても良い三日間でした♪

ここからは余談ですが、この余ってしまったスペースに何を書くか困ってるなうです。

あ、そうですね!!私、いつも笑ってるって言われるんですけど、授業中とかはさすがに笑ってないですよ!!ぼーっとしてます。ただ、人よりちょっと真顔になった時口角上がってるだけなんです。なので怒ったときと迫力ないん

場スタンプ。私はスタンプの本番でセリフが全部とんでいくという大失態をしてしまいました。でも班のみなさんがフォローしてくださいました。橋野先輩と小野先輩のコントのノリはおもしろすぎでした。メンバーのみなさんに感謝したいです。二日目で八正会のみんなと打ち解けることができました。

——三日目。

ボランティア、ブラインドツアーを終えて今に至ります。この研修で八正会のみなさんと絆を深めることができました。ほんとうに素敵な人たちばかりです。来年の研修会にもまた来たいです。

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校一年 黒住 美恵子

私はこの三日間でいろんな人と関わる事ができました。

それと色々な事が楽しめました。

初めて話す人ばかりで最初は緊張していたけど、だんだんと緊張がほどけてきた頃には、学校こそ違えど、学校

ですよ。ずっと笑顔だと表情筋痛くなる時ありますし、でも笑ってしまうんで自分でも困ってます。笑顔もいろいろ大変ですよ!(笑)でも、それが良いって言われるんで嬉しいです。(照)↑え。

以上、余談でした☆

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校二年 笠 笑 太

今回の自主研修で、去年と大きく違ったのが、不安無くスタートしたこと、頼られる場面がたくさんできたことです。

今年の一年生は、とても大勢の人がこの夏研修に参加していて、班内にもたくさん的一年生がいました。自分もそうだったように、彼らも不安でいっぱいだろう、と思い、自分もしてもらったように、活動の中で自分からアクションを起こすことを心がけました。その中で、やはり三年生の存在は大きくて、とても頼りになりました。また一年生の元気の良さには圧倒され、最初は敬遠していましたが、

今ではとても楽しい仲間達です。

活動の内容においては、自分の班・六班は全体として、とても良い成績を残せたと思います。レクリエーション二位、デイベート勝利、スタント優勝。これもまた、班員に恵まれたのもあるかもしれませんが、やはりチームワークと活動を楽しもうとする心があったからこそだと思っています。準備においても協力することができて、楽しむだけでなく、学ぶこともたくさんできたと思います。

来年の夏研修ではもう三年生。今年の三年生はとても頼れてかつこ良かったです。その三年生以上に信頼されるような先輩になりたいです。

今年も去年に負けない、最高の研修会でした。

夏期研修会を終えて

岡山城東高校二年 小林 遥

今回の夏期研修は、本当に本気で終わっていなかった宿題を少しでも進めよう、という目的を一番に行きました。最終的には、その目標を達成できたし、加えてみんなと、

夜の部屋での時間は、みんなと話すのがとても楽しかったです。宿題していたはずが、皆で自分の好きな本について熱く語っていたり。学校や住む所が違うからこそ面白い話もたくさん聞きました。修学旅行や授業のこと、部活動のこととか。内容はここで書ける程大した話はしてないし、まずほとんど忘れてますが、研修の夜ってそんなものでしょう。来る前はちよつと大儀でしたが、皆でこういう時間をすごせて、来てよかったなあと思いました。同じ学年ではないけど、音楽の趣味が面白い人を見つけたのも嬉しかったです。次の秋の研修が楽しみになりました。

夏期研修会を終えて

山陽女子高校二年 影 山 姫 花

私は去年の夏期研修は部活の関係で一日目しか行けませんでした。だから今年は三日間行けたらいいなあと思っていただけ、やっぱり部活の関係で三日目しか来れなかった。

友達から野外炊事でカレーを作って、おいしかったとか

特に同学年の女子と前よりも随分仲良くなれたと私は思っています。

特に思い出に残っているのは、夜の部屋での時間とスタントです。まずスタントでは、私のいた六班がなんと一位をとりました。昨年この作文で最下位の愚痴をつらつらと並べていたのに。一位をとりましたが、ネタがなかなか決まらず、夜中にだから大富豪をしたりしていました。決まっただけですんなりストーリーができて、役者も面白い、昨年のドタバタが嘘のようでした。昨年は昨年でそれが楽しかったけれども。

スタントの役者のことですが、私はたいした役でなかったのですが、六班には個人賞を獲ったキンタロー、もとい合田さんや、マルチな才能を持つ山本先輩のB、z稲葉、(六班では一番頑張ってくれたと思います)美しい子ぶた役の三宅くんなど素晴らしい人達が集まっていました。本番でやった時より練習の方が楽しかったです。全員笑わないうようにするのに必死でした。影山さんが来たのが三日目からだったので、一緒にやることができずとても残念に思います。とにかくスタント、今回はおかし一杯もらえてよかったです。毎年これくらい安泰なら精神的負担もちいさくていいのに。というのはちよい役だったから言えることだと思えますが：

デイベートで『高校生に体罰は必要か』などについて話したとか、スタントで一番になったとかいろいろ話を聞いているととても楽しそうで、自分も来てやってみたかったなあと思った。

でも三日目しか来れなかったけど、たくさん楽しいことがあった。

一番よかったのはブラインドツアーです。私は六班でした。かけ声や点呼ではみんなで大きな声を出してすぐに合格できて、ふん囲気がとてもよかったです。目かくしをしている時、何も見えなくて目の見えない人は毎日こんなに怖い思いをしているんだなあと改めて感じた。だから点字ブロックの上に自転車を置いたりするのは危険だから絶対にやらないようにしようと思った。

ブラインドツアーが終わって少し時間があつたので五年ぶりくらいのアスレチックで思いっきり遊んだ。木のまるたを渡る時、体操の平均台より不安定で高いから少し怖かった。他にもロープのブランコのようなとかタイヤを渡るとかネットを歩くとかいろいろあつても楽しかった。

それに友達ともたくさん話せて嬉しかったし、ご飯を食べる時前が先輩で少し緊張していたら優しく話しかけてくれて嬉しかった。後輩とも恋バナしたりとか、おもしろい子とかいて楽しかったし、かわいいなあと思った。

最後に今日の一日で私はボランティアとか人間関係とかたくさんのお話を学べた。この経験をこれからの自分の生活に活かしていきたい。

夏期研修会を終えて

岡山城東高校二年 難波 千里

この研修で一番勉強になったことは、体罰についてです。昨年のディベートの議題は、「女系天皇を認めるべきか」と「大学生の秋入学を認めるべきか」でした。どちらの議題も、あまり身近な事柄ではなかったので、少し取っつきにくく難しかったです。しかし、今年は、「高校生に体罰は必要か」と「土曜日授業は必要か」という身近な議題でした。

私の班は、「高校生に体罰は必要か」という議題でした。最近、テレビのニュースでよく取り上げられる体罰について。しかし、私は体罰という言葉の本来の意味を知りませんでした。体罰の定義とは何なのか。指導上の暴力は体罰になるのか。体罰について大切なことを知りませんでした。

夏期研修会を終えて

倉敷古城池高校二年 片山 遥

今回が二回目の参加になります。去年はとても緊張していましたが、今年は八正会の友達と会えると思うととてもワクワクしていました。去年、この作文で自分が書きたいことを好きなように書いていくと膨大な原稿量になってしまったので三つのことについて書くかと思っています。

まずは野外炊事。去年は工場見学だったので八正会での野外炊事は初めてでした。最初はワクワクしていましたが、暑い！とにかく暑かったです。火の近くで作業をするので、とても汗をかきました。(多分あの汗の量は部活並みのレベルだったと...)しかし班員で協力して作ったカレーは、お米が焦げていようが野菜が煮えてなかるうが(あ、嘘つきました。野菜煮えてました。)とてもおいしかったです。

次にスタンツ。私たちの班は「爆笑レッドシアター」のコントをしました。セリフは前日に先輩が紙に書き写してくれたのですが、まあセリフが頭に入らない。そんなので本番に挑むと...結果はもちろん六位(笑)パニック状態に

しかし、体罰というのは深刻な社会問題で、私たちは知っておかなければならないことだと感じました。

大阪府の高校で起きた、教師が生徒に対する体罰による生徒の自殺。あの高校はスポーツの名門校である。スポーツに力を注いでいる学校だから仕方がないという声も聞いたことがある。しかし、そんな高校でも立派な教育の場である。教育の場において体罰は認められてよいのか、いやよいはずがない。ある目的があったとしても教育の為に暴力という手段を使って教育するのは間違っていると思う。

暴力を使わなくても教育はできるし、暴力を使わないと教育ができないという教師はただ教師に言語能力がないのか、説得力がないだけにすぎない。どんなことがあっても暴力である体罰は認められるべきではないと強く思いました。

このようなことはディベートを通して、私を感じたり、考えたことです。今まで知らなかった体罰について詳しく議論でき、学ぶことができて本当によかったです。

なってしまったのでした。でももう一つのコント「人生ゲーム」は好評だったようで、みなさんが笑ってくれて嬉しかったです。

最後にブライントツアー。別名暗夜行路です(笑)とても楽しかったですが、ブライントツアーのスタート地点までの道のりが地獄でしかありませんでした。本当に死ぬかと思いました。いよいよスタート。ワクワクというよりドキドキでした。(怖いほうの)班員と協力したり、声かけとかできたので無事にゴールに到着できて本当に嬉しかったです。

夏期研修を通して、先輩や後輩ともさらに仲良くなれた気がします。このような人と交流する場を設けてくださりありがとうございます。来年も是非参加させていただきたいと思っています。

夏期研修会を終えて

倉敷天城高校二年 小西 茜

二度目の八正会の夏期研修が終わりました。私がこの研

修会で印象に残ったことは二つあります。

まず一つ目はデイベートです。去年、初参加したときは右も左もわからず、役に立ってないばかりか話している内容もよく分かっていない状態でした。しかし今年は去年の流れを知っているおかげか自分の意見を班のメンバーに言うことができました。また、三年の先輩方には本当に尊敬です。立論の立て方や反対尋問の仕方など学ぶことが多くありました。来年、自分が先輩達のようにできるかは自信がありませんが先輩を引っ張っていけるような三年になれるよう頑張りたいです。

二つ目はスタンプです。私はナレーションで他の班のメンバーのように大変ではなかったのですが、今年の一年生のすごさに驚きました。私の班だけではなく他の班の一年生も率先して人前に出ていてびっくりです。去年の自分とは比べものになりません!!三年の先輩もてきぱきとやることを決めてくれていて、私は頼ってばかりでした。すみません(泣)来年は自分が決めていかないと思うとちょっと恐いです(笑)

こんな感じで去年とあまり変わらず先輩達に頼っていましたが、去年よりは人前に出るのを恐れなくなったかなと思います。また、同じ学年の人とは去年よりさらに仲よくなれ、今では同じ学校の友達のようにです。次に会うのが何

感じました。夏期研修会は楽しすぎて二泊三日がとても早く感じられました。去年もすごく楽しかったけど、今年の方がさらに楽しくて、来年は今年以上に楽しかせたいと思います。普段遊ぶ友達と違って年に数回しか会わないのでこういった時に遊ぶのは本当に楽しいです。きっと二年生の中では一番八正会を楽しみにしていると思います。来年の夏期研修会はもしかしたら参加することができないかもしれないけど、秋や冬にまたみんなに会えることを楽しみにしています。

夏期研修を終えて

就実高校二年 萩原 萌

私が一番嬉しかったことは、八正会の研修を三日間全て入れたことです。昨年は、一日目で熱を出し帰ってしまっただからです。だから、私は一年生と同じような気持ちでしたが、グループの人はみんな優しく、いつもならあきらめなくなるようなことや面倒でやりたくないことも積極的に参加することができました。そして、中でも印象的だっ

カ月も先になるのが寂しいです…。今年も楽しく夏期研修を過ごせて感謝です!!!八正会、引っ張ってくれた先輩方、ありがとうございます。来年はもう少し成長して来れるよう、頑張ります。

夏期研修会を終えて

倉敷工業高校二年 清水 晃 希

今回の夏期研修は本当に楽しかったです。まず野外炊事では、火をつける係でとても熱くて大変でした。自分たちでつくったカレーはとてもおいしかったです。次に備前焼きをしました。なかなかおもったように作れず残念でした。デイベートでは自分たちの班に全然貢献できなかったと思います。三年生が引っ張ってくれたので本当に感謝しています。スタンプでは絶対優勝して個人の賞もとりたかったのですが、四位だったので悔しかったです。来年こそは優勝できるようにがんばります。ブライントツアーでは目が見えない大変さを知りました。班のみんなの声だけが頼りで普段あたりまえのように何かを見ていることが、幸せに

たのがこの二つです。

一日目の「野外炊事」では男子は火の係、女子は野菜を洗って切る係とご飯を洗う係になりました。ここで一つ驚いたのが、男子が真夏日の中、率先して嫌な係をやってくれたことです。おかげで役割をさっさと決められ、どの班よりも早く準備をすることができました。カレーはスープのようになってしまいましたが、初めてにしてはおいしかったですと思います。

また、一日目はこの他にも「備前焼作り」やグループ戦の軽いゲームをしたりしました。他にも二日目の「デイベート」でははく熱した戦いで、先輩方の反対尋問は高校生とは思えないほどでした。スタンプではみんなを笑わせる方法をグループで一斉懸命に考えたりしました。

どれも楽しかったのですが、やはり印象的だったのは三日目の「ブライントツアー」です。これは、急な斜面の山のぼり、目隠しで降りるといふものです。これには大変苦勞させられました。なぜなら、どこに穴があいているかまったく分からなかったからです。後ろから「この穴が深いよ」とか「ここに木があるよ」という前の人たちの声と自分がぎゅっていているロープだけがたよりで、私もこけかけたうちの一人です。目が見えない人はいつもこんな感じで歩いているのかということがよく分かりました。

最後になりましたが、閑谷学校の先生と八正会の人々のおかげで安全に研修を終えることができました。本当にありがとうございました。

夏期研修会を終えて

創志学園高校二年 小林 桂子

私は昨年夏期研修に参加したのですが、あまり自分を出せずに終わってしまったのでとても後悔していました。だから、二年生の夏期研修では明るく、元気に、何事も積極的に行動すると心に決めていました。

しかし、実際半年ぶりに八正会の皆さんに会うと少し緊張してしまいました。同学年の女子とはバスに乗る前から会話がはずんでいたので楽しい研修になりそうな予感がありました。

私の印象に残っているのは野外炊事、レクリエーション、スタンツです。

野外炊事は初めてだったので、最初は何をすれば良いのかが分からなくて戸惑っていました。しかし、先輩からの

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校二年 小野 雅史

今年もまた、八正会の夏期研修会に参加させていただきました。

一日目の最初の活動は野外炊事でした。かまどの炎と炎天下の熱気から汗が止まらなくて本当に倒れそうだったのですが、僕の班は見事にカレー作りに成功し、おいしい昼食を食べることができました。

二日目に印象に残ったのはやはり、スタンツです。実は、僕は昨年の班のスタンツで最下位になってしまったので、今年こそは、と思い、一日目から班の人たちと打ち合わせをしていたのですが、本番直前まで長いセリフが覚えられず、結局、昨年同様グダグダになってしまいました。班の皆さん、本当にすいませんでした。来年は僕は三年生なので、今年の反省を活かし、良いスタンツをしたいと思えます。

二日目の夜から三日目の早朝には部屋でトランプ大会がありました。僕は普段、なかなか三時とか四時まで起きていられないのですが、眠さと退屈を吹き飛ばしてくれるト

指示があったり、後輩と一緒に考えて行動することで有意義な時間が過ごせたと思います。カレーの味も薄すぎず、濃すぎずおいしく出来上がったので良かったです。

夜のレクリエーションでは、いろいろなことで他の班と競いあいました。新聞紙の上に班の皆で乗るゲームでは、一年生におんぶされることになってしまいました。私はおんぶされ慣れてなくて焦りました。上手くのれなくて本当に申し訳なかったです。でも、とても楽しい時間でした。

スタンツはなかなか決まらなくて心配でした。練習のときも、いまいち盛り上がりすぎて大丈夫なのかと思っていました。なので、本番はとりあえず楽しめたらいいな位で、正直あまり期待せずに臨みました。しかし、最終的に八正会のほぼ全員が参加という形になり、大盛り上がりですごくおもしろかったです。

来年は三年生として夏期研修に参加するので、心の準備もしておかなければならないです。今年も楽しかったです。来年は今年以上に楽しくなると思います。

ランブ大会が、現役生ではあと一回だけだということを思うと、とても寂しく思います。

三日目には、ブライントツアーがありました。僕は直前までブライントツアーが何なのか全く分かっていなかったのですが、体験してみると、言葉でのコミュニケーションの重要性や、目の不自由な人々がどれだけ大変であるかということが分かり、とても有意義な活動だったと思います。

三日間の活動を通して感じたことは、異なる学校や学年同士の交流がとても大切だということです。今年も二年生として、先輩・後輩の両方の立場として参加しましたが、このようにたくさんさんの学校も学年も違う人々と交流できる機会は僕には八正会だけなので、これからも八正会の活動に参加したいと改めて思いました。

夏期研修会を終えて

岡山朝日高校二年 久富 聖也

僕は今年で夏期研修を終えたのは二回目になりますが、やはり夏期研修はとても楽しいです。

夏期研修は八月十日から十二日まででしたが、僕は初日の三日前にはボランティアリーダー育成の講習を一日中受けて、二日前と前日には岡山市の保育園で一日中子供達の先生をJRC部の活動でやったりして、家に着くのがずつと夜の十一時半くらいだったので、研修初日の朝からとても疲れていました。しかし、とても楽しみだったので時間通りに起きられました。

今回の研修では僕は先輩になったはずなのですが、先輩として後輩を導いたりできていないし、あまり自分の班の役に立てなかったように思われて、少し悔いがあります。今年の一年生は皆とても積極的で頼もしかったので、そこに任せてしまった部分があったのだと思います。ディベートでは、反対尋問のとき、僕の答えがあまりいいになってしまつて心配でしたが、班の協力で勝つことができました。班の皆にはとても感謝しています。スタントも僕はおそらく去年より仕事をしていないのに二位をとることができて、班の皆には感謝しまくりです。僕は本当に少しのことしかできませんでしたが、皆で協力して結果的にもなかなかの成績でとても嬉しく、楽しかったです。

今回の研修では、友達と楽しみの享受はもちろんでき、自分の課題も見つけられてとても有意義だったと思います。来年までに課題をこなして、進化して戻ってきたいと思

わりに任せるのではなく、自分が中心となつて話し合うのは初めてで、先輩達のような良いものを作れるかとても不安でしたが、班で色々話し合うこともできたのでとても思い出に残っています。本番では、みんなが盛り上げてくれたので、ほつとするのと同時に自分も楽しめたのでとても嬉しかったです。

現役生として八正会に行くのもあと二回と考えると、とても寂しいですが、その時その時で、一回り成長できたらいいな。と思います。この夏の経験をこれから活かしていきたいです。

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校三年 安井彩果

やっぱり楽しかった!!

去年は用事があつて行けずショックを受けていた。だからこそ今年のこの三日間は私にとって大変充実した良い思い出となった。

何より先輩・後輩とたくさん触れ合うことができた。初

ます。

夏期研修会を終えて

津山高校三年 齋藤 莉華子

八正会に入会して、現役生として最後の夏の研修がもう終わろうとしています。この三日間を過ごして、まず思うのは、初めて班の中で多くの意見が言えたことです。今までとは違って三年生としてしっかりしないと。と思つて過りました。

その中でも、私の印象に強く残っていることは、ディベートです。今までの二年間は先輩について行くだけで、発言もあまりせず、ただ難しいと思つていました。でも、今年はずいぶん内容や思ったことをすぐ口に出すことができたので自分の中では良かったと思つています。三年間、一回も勝てなかったのは、すごく悔しいですが、将来に役立てることができると思うので、本当に良い体験だったと思いません。

もう一つ、楽しかったのはスタントを考えたことです。

初めて同じ高校の女の子の後輩がいたのも私にとっては大きかった。ぜひぜひ学校で会ったら声をかけてくれたり、違う高校の人ともこれからどんどんつながりがもてていけたら嬉しい。私は今年、三年生なので短い間だけれど、みんなと更に仲が深まつていくといいなと思う。

また班での活動もたくさんあった。三年生は出し物やディベートで後輩を引っ張つていくのは大変かな……と思つていた。しかし私よりはるかにしっかり者の後輩ばかりで本当に助けてもらった。我ながら力不足だったなと反省している。このことをバネに今後の学校生活や日常生活に活かしていきたい。そして、しっかりとリーダーシップ性を発揮してみんなのお手本となれるような人材にまわりの友達に支えられながらも成長したい!という新たな目標が私にできた。と、同時にまわりの人から信頼され、私自身もみんなを自分の力で支えていきたいとも強く思った。

この三日間、本当によく笑つてよく叫んだように思う。一言で言うところ「スッキリ」!(笑)明日からまたやつてやるんじゃないか!と気合いを入れ直すことができた。勉強に文化祭の準備にといろいろと忙しい毎日がまたやつてくるけれど、いつもポジティブに自分を信じて過ごしていこう!そして今年の夏のこの三日間も大切な思い出の一つとして心にしまつて過ごしていこう!

みなさん、楽しい三日間をありがとうございました。

夏期研修会を終えて

岡山操山高校三年 佐伯 映美鈴

三日間、本当に楽しい時間があっという間に過ぎていきました。デイベートやスタンツも、実際にするまでは「嫌だなあ。」とか「緊張するなあ。」とか考えていましたが、いざやってみると何もかもがおもしろく感じられました。

特に私の班はチームワークがよく、話し合いなどもスムーズに進んでいったので、少しずつ案を言い合って工夫したりするなど、一番協力し合えた班だと自負しています。班で行動することが多かったのですが、班内でとてもいい雰囲気を作れたこと、やるときは本気でやれたことなどが、この三日間をより有意義なものにしてくれたと思います。おかげで、レクリエーションでは二位になったり、デイベートでも勝ち、スタンツでは優勝できたので、三年生最後の研修としては今までの経験がフルに活用されてよかったです。と思います。

実は、私は夏期研修の三日間通して参加したことがなく、正直なところ、行くまでは本当に不安でした。しかし、後輩も含めて多くの人が優しく、親しみをもって接してくれたので、すぐに慣れることができました。最後の研修会と

いうことで、私はどうせなら思いっきり楽しんでやろうと思いました。「自分から」声をかけたり、手伝ったり、楽しんでらする。このことがこの三日間をより充実させたのかな？と今振り返ってみて思います。

私はもう夏期研修に現役生として参加させていただくとはできないのですが、ぜひ、夏期研修会は参加すべきです。後輩のみなさんに自信を持って言えます。「自分から」「積極的に」楽しむことの大切さを体験できる、素晴らしい機会なのですから！

夏期研修会を終えて

倉敷古城池高校三年 吉川 江美

二泊三日の夏期研修会を振り返ってみると、最も有意義なものとなりました。最高学年でもあり、スタンツやデイ

ベートにすごく不安を感じ、研修会の前日にそれについて色々考えていると全く眠りにつくことができず色々と当日になり、野外炊事するときや、備前焼き作りするときも、「スタンツ、スタンツ…」と悩んでいました。けれども、いざスタンツの話し合いをしているとたくさんの意見が出てきて、練習時間が多めにとれ、とても良いものが出てきて嬉しかったです。

備前焼作りでは、私は本当に不器用で物を作ったりするのが苦手だったので、案の定花びんを作ったはずだったのに、とてもいびつなものへとなってしまっていました。けれども、焼き物を作るのは初めてだったのでとても貴重な体験をさせてもらいました。

また最終日のブラインドツアーは、盲目の人の気持ちや大変さを知ることができました。町の中を歩いていると、ときどき点字ブロックの上を杖みたいなのを使用して一生懸命歩いている姿を目にします。今までは点字ブロックなどがあるからあんなに簡単に歩けるんだなあと思っていました。しかし現実では容易なことではなく、不安や恐怖をかかえながら自分の足で歩いたりなどしているんだと身にしみて感じました。

活動などの他にも、OBの先輩や同級生から大学、高校生活のことや、どんな勉強をしているのかなどさまざまな

お話を聞かせてもらいとても勉強になりました。去年よりもみんなとコミュニケーションがとれて、本当に楽しい夏期研修会となりました。このような研修ができたのは、八正会の人たちや、閑谷学校の関係者の方たちのおかげです。とても感謝しています。また機会があれば参加したいです。ありがとうございました。

夏期研修会を終えて

岡山操山高校三年 山本 成

来る今年の八正会は、二、三年生十三人、一年生十七人の合計四十三人と夥しい数での研修でした。特に女子の数が圧倒的に多く男子側の肩身が狭く感じたり、一年生の男子がとても社交的ですぐに先輩と仲良くなっていました。

一日目について、早速各班に分かれて野外炊事を行いました。女子達には野菜や米の係を任せて、自分たち男子は火おこしを担当しました。火の調節や高気温、大量の煤に翻弄されながらも最後まで飯盒炊爨を頑張りました。その後は備前焼を作りました。形を整える道具を使わずに手で

練り物を延ばしたり形作ったりして何とか金魚鉢のようなものと埴輪を完成しました。夜には交歓会や遊びをして親睦を深めました。

二日目について、各班でデイベートをしました。今年で三回目ですがデイベートに対する苦手意識が強くて試合中のときも終始躊躇してしまいました。それまでの班での弁論作成、反対尋問内容の想定、資料作成など班一丸となって準備に取り組めたのは良い事だと思いました。そして夜には夏期研修の最大の山であるスタンツ発表がありました。去年までは羞恥心があつて上手く役作りが出来ませんでした。今回は初めて殻を割りました。芝居も滞りなく進んでいき、遂に一位を獲得ことができました。この日は特に体力的にも精神的にも疲れました。

最後の三日目について、まず閑谷学校の玄関の石橋を皆で束子で擦って苔を落としました。清掃に集中することが好きなので難なく熟しました。洗った後の西瓜もまた美味しかったです。今回の研修最後のイベントでブラインドツアーがありました。視覚を遮られた世界で不安でしたが、一歩ずつゆっくりと綱を辿っていき、怪我なくゴールできました。

デイベートやスタンツに加えて、毎年イベントが変化す

備前焼きでは「灰皿をつくっているの？」の一言でやる気がでるも結果は取っ手つきの灰皿ができた。

この研修で一番僕が考えていたことがある。それはスタンツだ。考えていたといってもマイナスの意味で。しかし一年生にもかわかわらさずしっかり意見を出してくれた人がいて、本当に感謝している。そのおかげでスムーズに話合いも進み本番は僕は失敗してしまつたがなんと二位だった。僕達のグループは過程では負けない自信があつたので喜びを分かちあつた。

今年の一年生はテンションが高く個性的な人が多かつたので最高に楽しく八時に帰つてしまつた後輩からは（最後までいてほしかった）ポデイソープの本当の使い方を教わつた。

有○先生からのおしかりも受けたが、それにも負けず、同級生と心ゆくまで語つた。ここでの話はその後の僕の人に重大な影響を及ぼすとてもよい話だった。

三年生で最後の研修だったが八正会の皆のおかげで最後にふさわしい研修だった。ここでの体験を必ず将来につなげようと思う。

るのは飽きないし、班内で協調性を高めることができるので、夏期研修はとても為になる行事です。僕は今年で三年生で、学生としての研修が終了することは非常に残念なことですが、一、二、三年で研修から学んだことは今後の自分の生活などで大きな支えになると思います。三年間本当に楽しい思い出を作らせていただきました。

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校三年 宮田吉朗

「夏期研修の時期がいに来た。」とハガキを見て今年も思った。二年の頃は楽しみという意味でこう思っていたが三年生は最高学年でリーダーでもあるから今年はかなり緊張していた。

野外炊事が最初にあつたが、一番の感想は火の番をナメていたということだ。↑料理が苦手な僕には火の番で乗り切ろうと甘い考えを持っていたのだが器用な作業だし目が痛すぎて一歩も中に入れないこともあつた。しかし皆でつくったカレーは最高だった。

夏期研修会を終えて

岡山城東高校三年 増田真帆

私の今回の研修は、なにもかもが『初』でした。今まで二回とも部活動の関係で、二日目の晩からしか参加することができず、ボランティアと三日目の活動一つしかできませんでした。今年は部活も引退したし三日間全部行ける！と思つていたら、OCとかぶつてしまい、野外炊事には参加することができませんでしたが、ほぼ三日間みんなと過ごすことができるんだと思うと、行く前からうきうきしていました。

班の人は、三年生は二人とも知っていたし、一、二年のみんなの名前もすぐ覚えることができました。すごくフレンドリーで積極的に動く人ばかりで、すぐなじめました。

デイベートやスタンツなど、知らないことしかなくて、大変なのかなあと思っていたら、どちらも想像以上に楽しかつたです。

デイベートはすごく短い時間だったけど、私たち一班は勝つことができたし、スタンツも二日間であれだけのものができて、最終結果は二位で、すごく嬉しかったです。全

員が一生懸命になれば、何でもやりとげることができるんだと実感しました。

今回一番楽しかったのは、ブラインドツアーです。山道はとても険しくて、登るのものすごく苦労したと思っていたら、今度は目を隠して山を下らなければならなくて、ものすごくしんどかったです。でも、みんなで状況を説明し合って、やっとゴールにたどり着いたときは、達成感でいっぱいでした。それと、目の見えない人たちの大変さを、少しだけかもしれないけど理解することができて、すごく貴重な体験をすることができました。

ほぼ三日参加できたので、いろいろな経験をすることができました。初めてばかりで、三日間とても充実していて、あつという間に終わってしまつて少しさみしいです。でも今年は今まで以上にたくさんの子と話ができて、学年を越えて仲良くなれたのでとても嬉しかったです。

学生としての夏期研修は今年で最後ですが、卒業してもOGとして参加できたらな、と思つているのでそのときはまたよろしく願ひします。

三日間本当にありがとうございました。

いことを体験でき貴重な経験となりました。

夏期研修は、様々な人と関わるができるだけでなく、私たちの将来に役立ちそうで、私たちが普段できないことを体験することができそうです。その中で、自分自身、学べることもあり、この研修は、私にとって、有意義な時間を過ごすことができました。

夏期研修を終えて

岡山城東高校三年 藤原亮輔

現役生最後となる、八正会の夏の研修ではたくさん思い出を作ることができました。施設についてすぐにあった野外炊事。僕は今まで野外炊事をやったことがなく、少し心配でしたが、火の番では、ちゃんとかまどが組み、強い火を薪に火が移るまで維持することができたので良かったです。

備前焼作りでは、僕は大きめのマグカップを作つて家でコーヒーを飲む時に使つてみようかなと考えていたのですが、思つていたよりも難しく、完成したときには、井に取

夏期研修を終えて

玉野高校三年 中村樹里

今年の研修は、私が現役生として八正会にいける最後の年でした。来年からは、現役生として活動できないことがすごい寂しいと感じています。といつても、時間は通り過ぎますから、OBの先輩として来れたらいいなあと思つています。

今回の研修の中で、私が一番印象に残ったことは二つあります。

一つ目は、二日目の、スタンプの発表が印象に残っています。私の班は、毎年すべつていて、今年がすごく不安でしたが、同じ班の後輩くんのおかげで、楽しい発表をすることができました。私がいたから、少しシケたりしましたが、皆が笑つてくれて嬉しかったので、印象に残っています。

二つ目は、最終日のブラインドツアーです。目が見えないということ、どういう事かということ、体験しました。何も見えないというのは、とても暗く、声だけでは、どこにいるのかも、全く分かりませんでした。普段出来な

い手をつけたかのような不恰好なものができていました。でも、完成品が届いた時にはコーヒーをそれで飲んでみようかなと思います。焼くときに割れないことを祈つていきます。

二日目のディベートでは、去年の議題が難しく、消化不良の感じがあり、今年は頑張ろうと思つて研修に参加しました。当日じゃんけんで負け、難しい議題になつてしまい、立論の組み立てでかなり難航しましたが、OBの先輩方の助けもあり、なんとか組み立てることができました。その後の本番の反対尋問では、相手からの激しい質問攻めにもなんとか答え、逆に質問攻めをする事もできました。試合結果としてはかなり良い試合ができたのではないかと思います。とても楽しかったです。

スタンスでは、話し合いの時からどうすると言ひ合い、なんとか完成まで持つていきましたが、大丈夫が心配でした。しかし本番では、最終的に盛り上がることで、(ほとんど反則技によって)、本当に良かったです。

最終日のブラインドツアーは一年の時のようなものを想像していたので、説明を受けたときは少し驚きました。目隠しをして、ロープだけを頼りに山をくだるのは、なかなか怖く、視界がなくなることの恐怖を身をもって学ぶことができました。

現役生最高学年として、参加した研修でしたが、班長として下級生を様々な活動の中でまとめたりするのは大変でしたが、良い経験になりました。本当にありがとうございました。これで、夏の研修に現役生として参加するのは最後となり、少し寂しいのですが、また機会がありましたら、OBとして、夏の研修に参加させて頂きたいと思います。その時は、是非、よろしくお願いします。

夏期研修会を終えて

岡山朝日高校三年 橋野弘道

現役生としての夏期研修会は今回が最後を迎え、思い返してみるとあつという間に時間が過ぎたように感じました。今年は今までと比べて、八正会のメンバーの数も増え、個性豊かな一年生を加えて、にぎやかな夏期研修会になったように思います。

一日目は主に野外炊事と備前焼作りをしました。野外炊事に関しては、とにかく暑かったという一言に尽きます。しかし、班のひととの協力で手際よくおいしいカレーを作る

成長できたと思います。

夏期研修を終えて

岡山朝日高校三年 影山俊介

八正会の三度目の夏期研修が終わりました。僕も今年は三年生で、リーダーとして班をまとめていかなければならない立場だったので、一・二年生の頃よりも若干緊張していました。

一日目、閑谷学校に着きましたが、昼食を作るためにすぐ野外炊事を始めました。特に、薪をくべて火を起こすのが大変でした。種火をつけても、そのまま放っておくと火は消えてしまい、絶えず風を送り続けなければなりません。また、ごはんも炊飯器ではなく直火で炊くことも経験し、炊き上がり具合の見極めにとまどいました。しかし結果的には全てうまく進み、多少おこげのついたごはんとかレーはとても美味しかったです。昼過ぎからの備前焼教室は、先生もお招きした本格的なものでしたが、陶芸経験の少ない僕には難しく、改めて焼き物の難しさを実感し

ことができました。備前焼作りは今回が自分にとって三度目でしたが、上手くは作れませんでした。また、夜のレクリエーションでは、班で協力し、楽しむことができ、一位でした。二班のみんなありがとう！

二日目は主にディベート・スタンツでした。今回で三度目のディベートでしたが、テーマも難しかなり苦戦しました。討議も完全燃焼とまではなりませんでしたが、今回のテーマに関しての考えや、論の組み立て方など学ぶものが多くあり、良い経験となりました。スタンツは練習時間も少なく、発表もうまくできませんでした。班のひとと協力して楽しく練習に取り組めたので良かったです。他の班のスタンツもどれも面白くて、盛り上がりました。MVP賞を自分が獲るとは思ってもみなかった。良い思い出となりました。

三日目はボランテニアとブライントツアーをしました。ボランテニアはいつも通り大変でしたが、活動後のスイカはとてもおいしく感じました。ブライントツアーに関しては、目の見えないことの怖さを実感することができました。今回の研修は三年生として、班を引っ張っていく責任がありました。なかなかうまくいかず、二班のみんなには迷惑をかけた。すがすがしく楽しかったです。この三日間は、今まで以上に有意義なものとなり、自分もひとまわり

ました。

さて、八正会の夏期研修は二日目がヤマだと思っっています。それは、ディベートとスタンツ発表の二大イベントがあるからです。ディベートについて、僕の班は「高校生への体罰は禁止すべきだ」という立場に立ち、班員みんなと力を合わせて準備していたのですが、本番の反対尋問で、僕が相手の意見を肯定するようなことを言ってしまった。最終弁論では時間をオーバーして途中やめになってしまったりと、リーダーでありながら班のみんなに迷惑をかけてしまいました。結果的に、みんなの頑張りで相手側に勝つことができました。自分としては本意なものでした。スタンツでは、今年もお笑いをやっただけですが、練習時間を十分にとることができず、セリフがとんで、五位に沈んでしまいました。

三日目、閑谷学校入り口前の橋の苔をタワシでこする、ボランテニア活動をした後、ブライントツアーをやりました。目隠しをすることのありがたさと、視覚障害者に対しても優しく接するべきであることを学びました。

今年の夏は八正会の研修以外はずっと勉強漬けで、精神的につらかったのですが、この研修で気分転換ができました。この研修はとても密度がこくて色々なことを体験でき

ましたが、同時に他の仲間を見て自分の至らなさを痛感しました。これらの貴重な体験をもとに、もっと自分が成長できるようにがんばります！

夏期研修を終えて

倉敷青陵高校三年 後藤 眞依

二泊三日の夏期研修が終わり、八正会現役生としてさまざまな活動に取り組むことができ、達成感を感じています。初日の野外炊事では班員全員で協力し、カレーを作りました。汗と煙や玉ねぎからあふれてくる涙に悪戦苦闘しながら作り上げたカレーは格別においしかったです。二日目は夏期研修の大イベント、ディベートがありました。事前に伝えられていたテーマに対し、自分でもいくつか主張を考えていたのですが、班で再度話し合うと自分の改善点や矛盾点がよく分かり、さらに論理の通った主張を考えることができました。私は過去二回の研修で立論発表をしたのですが、今回は反対尋問に挑戦してみました。いざやってみると、改めて相手の矛盾点を発見し、指摘し続けていくこ

最後に、私たちの研修をサポートして下さった八正会の先生方、受験生の私に対してアドバイスをして下さいました。Bの先輩方、本当にありがとうございます。残りの受験生生活、八正会での経験を糧に、自分の目標や夢に向かって力強く前進していきたいです。

夏期研修会を終えて

岡山芳泉高校三年 石井 宏佳

三日間の夏期研修、三年目の夏期研修が終わりました。はじめにこの三日間を振り返りたいと思います。

まず一日目、入所式を終えた後、野外炊事がありました。またともに料理をするのとは言っても結局火の係になりましたが一年生の時の秋期研修以来でした。同じ班になった人たちのことは、お互いによく知らなかったのですが、緊張のスタートでした。カレーはスープ状になってしまい、じゃがいもはシャキシャキの新食感でしたが、ご飯は上手に出来ました。ただ、片付けの時に足をつってしまったのは、ただけませんでした。

とがどれだけ難しいのか身に染みて分かりました。気づけば相手の主張に対してすぐ尋問してしまうほど熱中しており、これがディベートの面白さなのだと思えました。結果は勝利、全体でも高い評価を頂くことができ本当に嬉しかったです。誰かと意見をぶつけ合うこと、そこで互いの矛盾点に対して冷静に指摘することは今後社会人として生活する中で必要不可欠なことだと思います。貴重な体験として心に残しておきたいです。また、夜にはスタンプの発表がありました。個性豊かな一年生、二年生の協力もあり無事に終わることができました。結果はどうあれ、学年に関係なく八正会の皆が打ちとけ合える場となり、一層仲が深まったのではないかと思います。

そして三日目のブラインドツアーとあつという間の夏期研修でした。私は入所式の挨拶で「ひとまわり成長した姿で帰ることができるよう、しっかり活動したい」と言いました。今、三日間の研修を終えて、最高学年としての自覚と共に活動し自分ではひとまわり成長できたのではないかと思います。来週から後期の補習がスタートし、高校生活最期の行事である「青陵祭」そして最後には受験を迎える——と、今後もハードな日々が続きますが、三日間の研修で得た自分の成長を自信として胸に、高校生活を送っていくと思います。

次に、備前焼作りですが、周りの人と作品を見比べあつたりして、常に笑いが絶えませんでした。

二日目のディベートについてですが、一番欠けていたのは、審査員たちへのパフォーマンスの要素だと思います。僕が高校の部活動で行っていた英語ディベートでは、全く必要とされない要素なので見落としていました。ただ一つ言いたいのは、ディベートにおける反対尋問では、尋問する側が一生懸命かつ論理的に尋問しようとすればするほど、高圧的かつ一方的になってしまうものです。しかし、僕が出場した英語ディベートの全国大会、特に決勝トーナメントでは、尋問する側が高圧的かつ一方的であれば、尋問に答える側も高圧的かつ一方的でした。端から見ると、ただ口げんかをしているようにしか見えません。要するに何を言いたいのかというと、尋問に答える側もただ防御に徹するのではなく、むしろ自分が尋問する側を攻撃するかのような心意気で反対尋問に臨めば、より良いものになるのではないかと、ということでした。

そしてスタンプについてですが、間違いなく三日間の活動の中で一番楽しかったです。一年生に恥ずかしさを忘れさせるのに手こずりましたが、班の中でしっかりと団結して演じることが出来ました。ただ残念ながら、結果は四位でした。尺稼ぎに世俗の使者、ミッキーを登場させたのが

まずかったのでしょうか。

最後に三日目のブラインドツアーですが、本当に何も見えない状況の中で、歩いていくのは大変でした。

この三日間は研修を終えたことで、現役生として迎える八正会の研修は、あと二回となってしまいました。悔いを残さないために、最後まで頑張りたいと思います。

十年後のわたしへ

金沢美術工芸大学一年 合 田 貴 子

四月の初めに岡山を発ち、金沢に住み始めて四ヶ月程過ぎたころ。少数精鋭、ものは手で作って感じるものがモットーの大学です。毎日の学校生活は充実……と思っているのは、料理上手な友達にご飯を作ってもらい、睡眠時間も確保された、困ったことが無い状態だからでしょう。

ずっと金沢にこもっていてもつまらないので、八月頭にあった、タイムカプセルを開ける会に参加すると、八正会を理由に帰郷しました。

タイムカプセルを開ける会とは、私が小学三年生のとき

通いの子、働く子、妊娠してお腹の大きい子、と様々にいました。小、中学校の友達は、高校と違い、四方八方、とんでいる人が多いため、話がおもしろいです。苦手だった先生は、社会のために働いている、話の長い教頭先生は、自宅の庭で野菜を育て隠居生活を楽しんでいる、教育という現場に立った人は、生徒から教えられたことを吸収して生活を送っていることがわかる再会の会でした。

八正会の後輩も、顔がキリリと、雰囲気の良い研修を送ったようで、それが見られただけでも、私の中に潤いがありました。大学生としてアドバイスできる立場となり、また帰って来られたら幸いです。まだまだ出来事はありますが、これをもって近況報告とさせていただきます。

近況報告

岡山大学薬学部薬学科二年 後 藤 千 尋

大学に入学して早一年が経過し、大学生活にも慣れ、毎日充実した日々を送っています。大学二年生になり、一年生の時と比べて大きく変わったのは専門科目数です。現在

に、十年後の自分へ向けて書いた手紙を開けるといいうものです。実際には土管のような筒に入っており、十年前に埋めたときの状況は全く憶えていないのです。いったい何を書いていたでしょう。それは家族五人の絵をクリクリ少女漫画のような目で、当時よく着ていた服も詳しく描いていました。それと身長、体重。将来の夢には定番の、ケーキ屋さんとパン屋さん、料理家志望だったようです。今となってはご飯もまともに作れない娘に育っていますが、きっかけが違えば別の道を歩んでいたでしょう。

裏面には両親からのメッセージも書かれていました。家族それぞれの中の性格や近況、そして、十年後に皆がどうなっているのかを細かに予想して書いていた、母のママさしに涙がこぼれそうにはなりませんでしたが、母への尊敬の思いが強まりました。母の予想する私の十年後（今）はこうです。

「夢であるパティシエの修業のため渡仏中!?何ヶ国語も使いこなし、世界を渡り歩く……」

もう既に方向転換しているため、夢は違いますが、後半の部分を叶えるべく、まずは英会話を身に付けなければなりませんね。

また、同窓会の役割りも果たしていた今回の会には、歯科衛生士になるために専門学校へ通う子、一浪して予備校

は実際の医薬品に含まれている化学物質の構造やその合成法、最近話題の漢方薬の成分や効能など内容もかなり難しいですがようやく「薬剤師」になるために必要な知識を学んでいると実感できるようになりました。そして二年前期の講義では先ほどのいわゆる専門知識を習得する講義に加えもう一つ、医療従事者を志す者に必要不可欠な「マインド」を育む講義がありました。それは「人体解剖学」の講義です。解剖学を薬学部で勉強している大学は全国的にもまだ少ないようですが学習してみても本当に面白い学問だと感じました。普段自分が呼吸し、食物を消化・吸収する流れというのは高校の生物で詳しく学習しますし、小、中学校の理科でも概略は学んだと思います。しかしその機能を司る器官の構造を自らの目で見る機会は一生に一度あるかないかでしょう。私が実際にそうした体験ができたのは、生前に登録され自身の体を献体として提供して下さった方々、そしてその献体を解剖し各器官のつくりについて丁寧に教えて下さった医学科の先輩方などたくさんの方々のおかげであり、私はその恩を返せるように貴重な経験で得たものを定着させなければならぬと思います。薬剤師となつて今後患者様に服薬指導する際には、単に薬の作用を分子レベルで説明するのではなく誰もがイメージしやすい臓器レベルの、もっとマクロな視点で説明できたらと思

います。目指すのは、医療の正確な知識と、それを分かりやすく知りたいと願う患者様とをうまくつなぐパイプ役としての薬剤師です。

普段の専門科目の講義ではここまで自身の将来像と結びつけて学習することはなかなか容易ではありません。それだけ「人体解剖学」の講義は重みのある、実り多い講義でした。きつと講義に携わって下さった人々それぞれの思いが大きな大きな「医療人マインド」を私にプレゼントしてくれたのだと振り返ってみて改めてそう思います。

八正会の現役生の皆さんはいろいろと進路で悩むことが今後多々あると思います。けれどその時一つの指標にしてほしいのが「どれだけ人と関われるか」ということです。人と出会えば出会うほど自分の知る世界は広がっていくと思いますし、その広がった世界の中の自分を見つめなおすチャンスが増えるでしょう。そうすれば自ずとその世界の中で自分がどんな存在になりたいのか、どんな存在になるべきかが見つかってくると思います。だからもし迷って途方に暮れるなんてときはそんなこともちよつと考えてみて下さいね。

最後になりましたが今年も夏期研修会に参加させていただきました本当にありがとうございました。高校生の元気なパワーをたくさんもらって残り少ない(?)十代を一日一日大

切に過ごしていきたいと思います。

近況報告というか 皆さんに伝えたいこと

平成二十年卒 石井 祐多

お久しぶりです。現在夏期研修最後の行事、作文書きです。二年ぶりの参加でしたが、元氣な子が多く積極的に話しかけてくれて助かりました。研修の詳細については現役に任せるとして、ここからは自分のことについて書かせていただきます。

現在東京で大学院生なのですが、将来について迷っている時期でもあります。なんとなく思い描いていた将来設計とは違うことがしたくなり、今までなんとなくで進路選択をしていたツケが回ってきた感じ です。消極的な進路選択はやめた方がいいですよ。これが伝えたいことです。

人生やりたい事が変わるの当たり前です。しかし人生について本気で考える経験をしなないと、いざ就職や結婚などのときに上手く考えられません。そのせいでタイミング

を逃してしまいます。親や先生に勧められるままになんとか進路を選択すると、自分が積極的に決めていないので常に迷いが生じます。そんな気持ちが続くのは気持ちよくないですよ。なので、どうか将来のことはしっかり考えてみてください。いわゆる「いい学校」に行くことが最良の選択ではないことがあります。むしろ学歴が邪魔になることもあります。親や周りの期待に応えるのも大事ですが、自身が一番やりたいことを見極め、それに向かって進んでほしいと思います。僕のような迷子を増やしたくないんで、偉そうに書きました。

まあ、今を楽しむことは忘れず、たまに全力で将来について考えてもらえたら嬉しいですよ。

編集後記

8月上旬、念願の東北の祭り観光ツアーに参加することができました。「秋田・竿燈」「青森五所川原・立倭武多（たちねぶた）」「青森・ねぶた」「仙台・七夕」の四大祭りを3泊4日で観光するツアーです。仙台までの新幹線利用、後は観光バスでの周遊です。七夕を除く各祭りは、夜の実施ですから、昼は男鹿半島・入道崎、奥入瀬溪流、平泉金色堂、等を組み入れたバスツアーになっています。

秋田・竿燈は、次々に竹をつないでいき、大若と呼ばれる竿燈は高さ12m、46個の提灯をつるした重さは50kg。風にゆられる竿燈を額・肩・手のひら、さらには腰にのせてバランスをとる妙技を披露してくれます「どっこいしょ。どっこいしょ。」とかけごえをかけ、笛や太鼓の囃子とともに祭りがくりひろげられます。

立倭武多（たちねぶた）は、ねぶた祭りの中でも23mという大型のねぶたが圧巻。毎年、新作の大型ねぶたが製作され、昨年・一昨年製の製作されたねぶたは今年製作されたねぶたと共に運行コース付近の「立倭武多の館」で運行前に見学することができます。先頭はご当地出身、吉 幾三さんの熱唱「立倭武多」の舞台でした。

青森ねぶたは、七夕祭りの時に行われる灯籠流しの変形といわれていますが、起源は定かではありません。歌舞伎や神話を題材にしたねぶたが次々と大通りを曳かれる姿は壮観で、踊り手の「ハネト」や太鼓・笛・鉦の囃子方が祭りを盛り上げます。途中ねぶたを左右に動かし、ねぶたの前後の作品をよく見えるようにしたり、持っている鈴を観客に投げたりとサービス満点。毎年300万人を超える人々が熱狂するゆえんです。

仙台・七夕は10mの竹竿に吹流しを5本飾るのが基本形。伊達政宗公の時代から続く伝統の祭り。商店街を飾り立て、通っていると飾りの向こう側から通行してくる人とぶつかってしまうことも。吹流しに使う和紙の量も相当だろうなと思いつつ、趣向をこらした飾りに見とれてしまいます。

東北の祭りに堪能しつつ、岡山のうらじゃを見ていないのは後ろ指さされるでしょうか。

「ハレとケ」非日常のハレと日常のケを思い起こす休みとなりました。

〈オレたち花のバブル組を読んでいるが、
10倍速で進むTVに追いつけないY U A〉

発行責任者 玉井義郎
発行者 公益財団法人 八正会（トンボ育英事業団体）
郵便番号 七〇〇〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

株トンボ内 電話〇八六―二三二―〇三二―
協同精版印刷株式会社

印刷所

平成二十五年九月